港まち 小名浜の グランドデザイン

これまでの 10 年とこれからの 10 年…

アクアマリンパーク
Aquamarine Park

“港・人・まち”つなぐ　おなはまの夢・・・

小名浜まちづくり市民会議

目次

Ⅰ. はじめに

Ⅱ. 小名浜を取り巻く環境

Ⅲ. グランドデザインのコンセプト

Ⅳ. グランドデザインの全体像

Ⅴ. グランドデザイン
1. 小名浜のシンボル大通り「(都)平磐城線(鹿島街道)」
2. 海・まち・人の交流と情報の発信拠点となる「港湾背後地」
3. 賑わい交流空間と新たな港の産業「アクアマリンパーク」
4. 時代に合わせた漁業の再生「漁港区」
5. 小名浜庶民の「まちなか」の再生
6. 歴史と文化のまちなみ「小名川・古湊地区」

Ⅵ. これからのまちづくりへ向けて

Ⅶ. 検討の経過

Ⅰ．はじめに

小名浜まちづくり市民会議は、平成 12 年 12 月の結成以来 10 年を迎えることとなりました。それから、「港とまちが一体となったまちづくり」をテーマに、各種団体、企業、市民のまちづくりに対するベクトルを結集し、行政とのパートナーシップによるまちづくりを模索推進すると共に、小名浜が全国的に名を馳せることとなったアクアマリンパークでの賑わいづくり、港の背後地として生活を支え続ける中心市街地の再生、小名浜発祥の地米野地区の歴史と文化の伝承、小名浜の基幹産業として地域をリードしてきた漁業の、時代に合わせた再生など、小名浜が直面する課題に取り組んで参りました。

「港まち小名浜のグランドデザイン」は、小名浜まちづくり市民会議の結成当初から、自分たちのまちは自分たちで描くことをテーマに、会員以外の方々の参加もいただきながら、市民参加型のワークショップを続け、まちの将来像を描いてきました。このグランドデザインを基に、行政と共にまちづくりを続け、平成 16 年度には都市計画マスタープラン地区まちづくり計画の策定へとつながり、行政と市民が計画の実現へ向け協働作業を行うスタイルが構築されてきました。

グランドデザイン策定後、これら一連の作業により、ハード的には、都市計画道路平磐城線(通称:鹿島街道)の整備促進、小名浜さんかく倉庫再開発による小名浜美食ホテル・小名浜潮目交流館オープン、港湾背後地の都市計画決定などが実現。またソフト的には、港湾管理者とのアクアマリンパークの運営管理協定締結と大幅な利用の拡大、まちなかコンサートの継続開催、小名浜スタンプクラブの設立、小名浜みなとまち大学の設立運営、鹿島街道を小名浜の大通りとして相応しい景観づくりを進める景観形成重点地区指定など、その他多種多様な事業を展開し、港とまちにおいて様々なまちづくりの成果が現れました。

このような経過を踏まえ、これまでの 10 年間でグランドデザインに描いてきたまちづくりが実現したものや、今後益々取り組みを進めなければならないものなど様々な課題が見出されています。そこで、10 年間の成果を検証し、更に今後 10 年後へ向けて、私たちがどのような取り組みを進めるべきかを考えるため、小名浜まちづくり市民会議設立 10 周年の節目としてグランドデザインの見直しを進めて参りました。

これから小名浜のまちが、いわき市の中で必要な役割を果たしていくことと、地域の特色を活かしたまちとして持続可能な成長を続けることを願い、小名浜まちづくり市民会議はこれからも、まちづくりを永遠の取り組みとして活動を続けて参ります。

平成 23 年 3 月

小名浜まちづくり市民会議
会長　作山　栄一

Ⅱ．小名浜を取り巻く環境

1. 小名浜まちづくりの取り組み

1950 年代

・1954 年　第 1 回いわき港まつり開催（海事表彰＋パレード）

1960 年代

・1963 年　第 1 回小名浜港花火大会開催（7 寸 5 発、尺玉、仕掛花火の 3 部構成）

1970 年代

1980 年代

・1983 年　小名浜港東港起工式(運輸省主催)

・1986 年　第 1 回船の博覧会開催(磐城青年会議所主催)

1990 年代

・1991 年　小名浜を創る会設立

・1993 年　小名浜港ブルーサイクル貸出事業開始(小名浜を創る会)

・1994 年　小名浜地区商業の再編成を考える会設立

小名浜港ポートアイランド着工記念「寺内タケシ」コンサート開催

・1998 年　いわき市観光物産センター「いわき・ら・ら・ミュウ」オープン

小名浜港倉庫リニューアル検討会議発足

AO 会議開催(アクションアジア&オナハマ会議)　小名浜の街づくり提言書作成

2000 年代

・2000 年　アクアマリンふくしまオープン

・2000 年　小名浜まちづくり市民会議設立

・2001 年　港まち小名浜のグランドデザイン策定

・2002 年　アクアマリンパーク運営協定締結（港湾管理者・小名浜まちづくり市民会議）

・2003 年　港まち小名浜のグランドデザイン　アクションプログラム策定

・2004 年　まちづくりパートナーシップ協定締結（いわき市・小名浜まちづくり市民会議）

・2005 年　都市計画マスタープラン地区まちづくり計画策定

・2006 年　NPO小名浜まちづくり市民会議設立

・2007 年　都市計画道路平磐城線(通称：鹿島街道)花畑工区景観形成重点地区指定

・2008 年　小名浜港アクアマリンパーク倉庫地区再開発「小名浜美食ホテル」、「小名浜潮目交流館」オープン

・2009 年　小名浜港東港・高架橋着工

・2010 年　港湾背後地都市計画決定

・2011 年　港まち小名浜のグランドデザイン　これまでの 10 年これからの 10 年策定

2. グランドデザイン策定の流れ

港まち小名浜のグランドデザイン

・H13 市民参加のワークショップを開催し策定
・港とまちの機能を 13 のゾーニングに分けとりまとめ

↓

グランドデザインアクションプログラム

・H14 行政と市民会議によるワークショップを開催し策定
・ゾーニングを背景とした、ハード・ソフトからなる個別具体計画のまとめ
・「短期・中期・長期」＋「いつ・どこで・だれが・・・」の区分け
・行政と市民の役割り分担とまちづくり実現に向けアクションづくり

↓

都市計画マスタープラン地区まちづくり計画

・まちづくりパートナーシップ協定締結
・H16 市民会議グランドデザインの提案を受け行政計画として策定
・小名浜の港、港湾背後地、市街地の開発計画
・行政各担当の横断的なまちづくり協力、民間と行政の協働計画

↓

協働によるまちづくりの実施

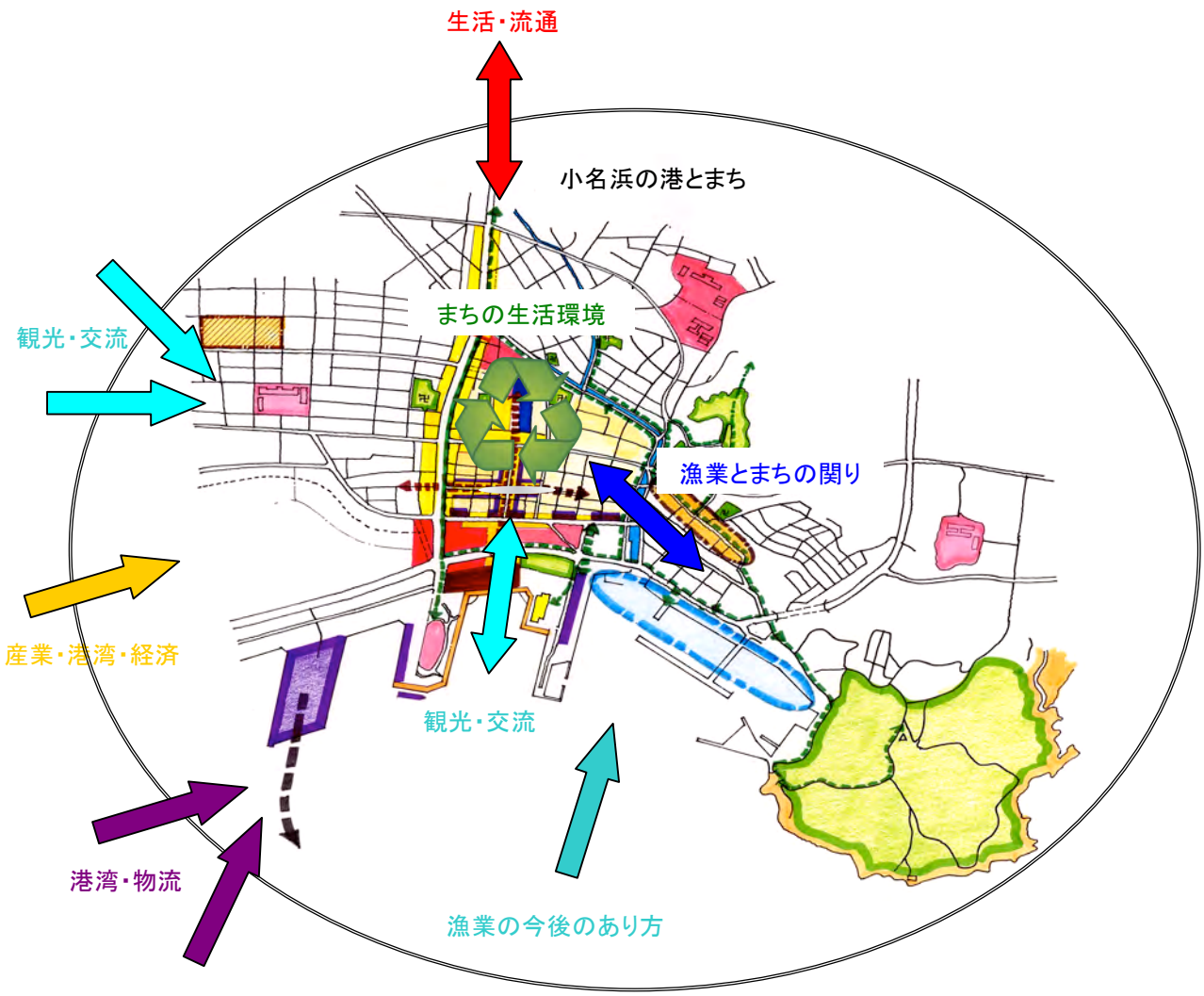
・都市計画道路平磐城線の整備実現
・アクアマリンパーク倉庫地区再開発実現
・港湾背後地都市計画決定　　…主なもの
・各種ソフト事業の継続実施

↓

グランドデザイン 10 年検証

・10 年間活動したものの実現した計画と実現に至っていないもの
・時代背景に合わない開発を提案しているもの
・実現へ向けてアクションを起こしたものの諸般の理由で実現不可能となったもの
・新たな時代に合わせた再生や計画が必要なもの

3. 小名浜を取り巻く環境



1. まちの生活環境
   - 高齢化の進行と人口重心の郊外移転、商業の衰退、幹線道路整備、都市域内交通網対策
2. 生活・流通
   - 人口重心の移転に伴う居住体系の対応、モータリゼーションの進展、流通革新
3. 観光・交流
   - 観光交流人口の増加に伴う日常と非日常、新たな産業として観光の捉え方、港とまち・漁業と観光のあり方
4. 産業・港湾・経済
   - 港を基点とした小名浜港の産業基盤、経済・雇用の今後
5. 港湾・物流
   - 東港建設と物流機能の強化、国際貿易港として元気な港
6. 漁業の今後のあり方
   - 漁業の今後、まちと漁業の関り

Ⅲ．グランドデザインのコンセプト

【10 年間の活動】

港まち小名浜のグランドデザイン

【H13 グランドデザインの策定】

（港とまちを機能的な 13 のゾーニング）

↓

【H15グランドデザインアクションプログラム策定】

（ゾーニングを背景に実現へ向けた役割分担）

↓

各種ハード整備・ソフトのアクション展開

↓

【小名浜を取り巻く外的・内的環境】

1. まちの生活環境	2. 生活・流通	3. 観光・交流
4. 産業・港湾・経済	5. 港湾・物流	6. 漁業の今後のあり方

↓

【テーマ】

○経済・産業的背景＋生活環境の背景＋時代的背景

○目的と対象：小名浜に生活する私たちにとって…、小名浜の市民生活と持続可能な社会づくりのため

↓

3 つのキーワード

臨海工業・観光・漁業など多面性を持つ港を活かした産業とまちづくり

日常と非日常の結節点、まちの機能性と持続可能な発展を重視した港湾背後地開発

商業・文化歴史・生活など人のつながりと 21 世紀型の港町のあり方

↓

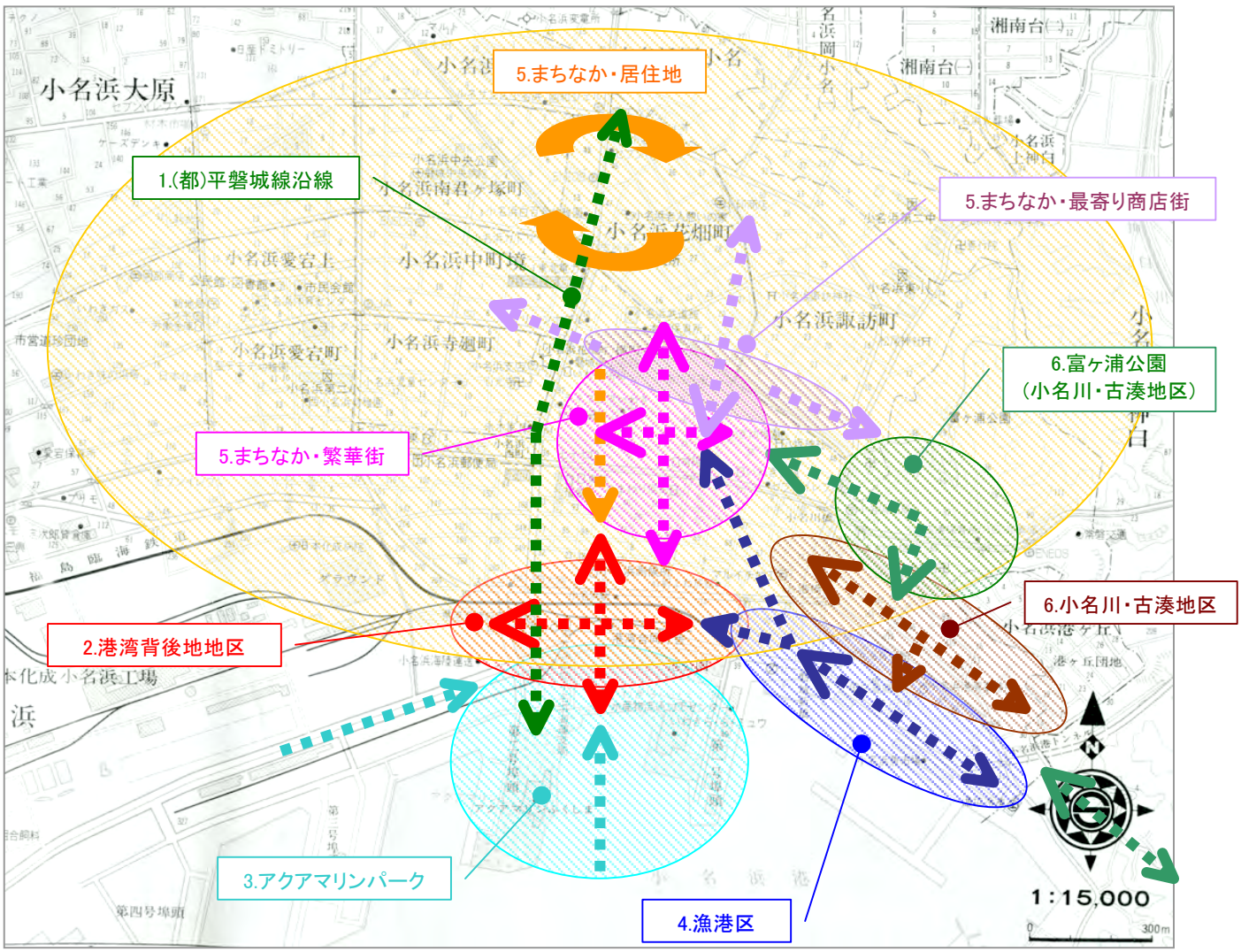
【コンセプト】

時代に合わせた持続可能な 21 世紀型港まちづくり

BRAVO　小　名

Ⅳ. グランドデザインの全体像

1. グランドデザインの全体像



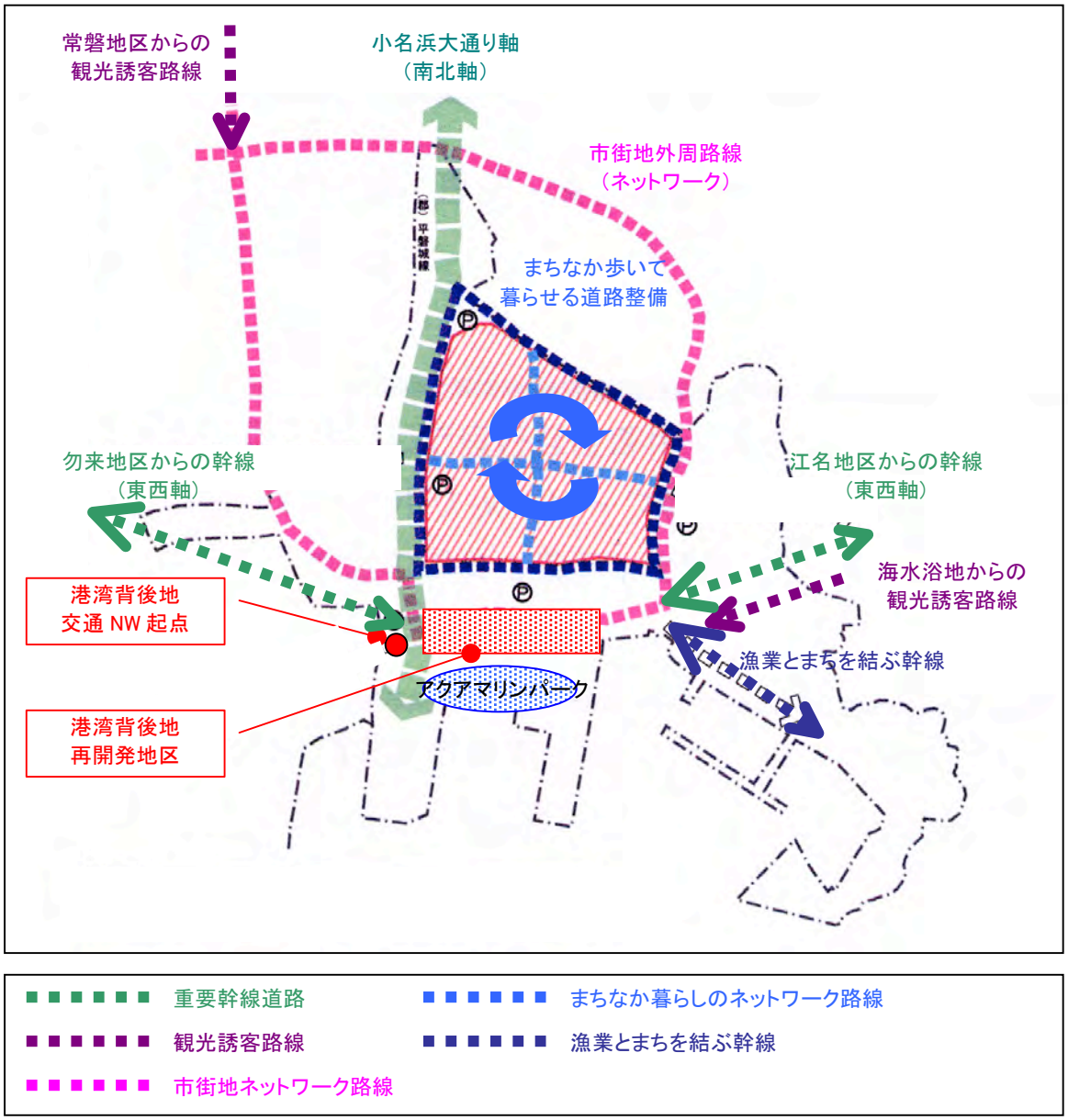
1. 小名浜のシンボル大通り「(都)平磐城線(鹿島街道)」
   ・港とまちを結ぶ小名浜の大通りとして、景観形成に配慮したまちづくり。
2. 港・人・まちの交流と情報の発信拠点となる「港湾背後地」
   ・新たな港の生業、観光振興を図る。
3. 県内最大の親水交流拠点「アクアマリンパーク」
   ・都市センターゾーンとして、観光と居住、港とまちの結節点。
4. 時代に合わせた漁業の再生「漁港区」
   ・魚市場の再生と、新たな漁業のあり方を探る。
5. 小名浜庶民の「まちなか」の再生
   ・高齢者、子供たちにやさしい、便利・近い・安全なまちなかの居住を目指す。
6. 歴史と文化のまちなみ小名川・古湊地区
   ・小名浜発祥地の歴史と文化を伝承。

2. 港湾背後地を核とした交通網ネットワーク

港湾背後地を核として、(都)平磐城線を南北の中心軸として、東西からの幹線道路として産業道路を設定。観光誘客に欠かせない常磐から、永崎海水浴場からの路線を観光軸。市街地はネットワーク化と歩いて暮らせるまちづくりを推進することで、港湾背後地発・着の交通網を整備することが出来る。

また、合わせて、近隣住宅地と市街地の病院、商業施設、アクアマリンパークなどを回遊するコミュニティバスなどを整備することで、小名浜総括的な交通網のネットワーク化を図る。

【幹線ネットワークのイメージ】



(1)重要幹線道路

・(都)平磐城線を小名浜の大通りとして、アクアマリンパークへ通じる産業道路を東西の幹線として整備

(2)観光誘客路線

・通称大原街道を常磐地区と結ぶ観光誘客軸として沿線の整備を促進

(3)市街地市道

・大通りにアクセスする市道を円周路線として各拠点とネットワーク化

・中心市街地を歩いて暮らせる歩道づくり、沿道の景観形成などへ

(4)魚市場からまちなか

・港まち小名浜として漁業とのつながりを大切にする路線形成

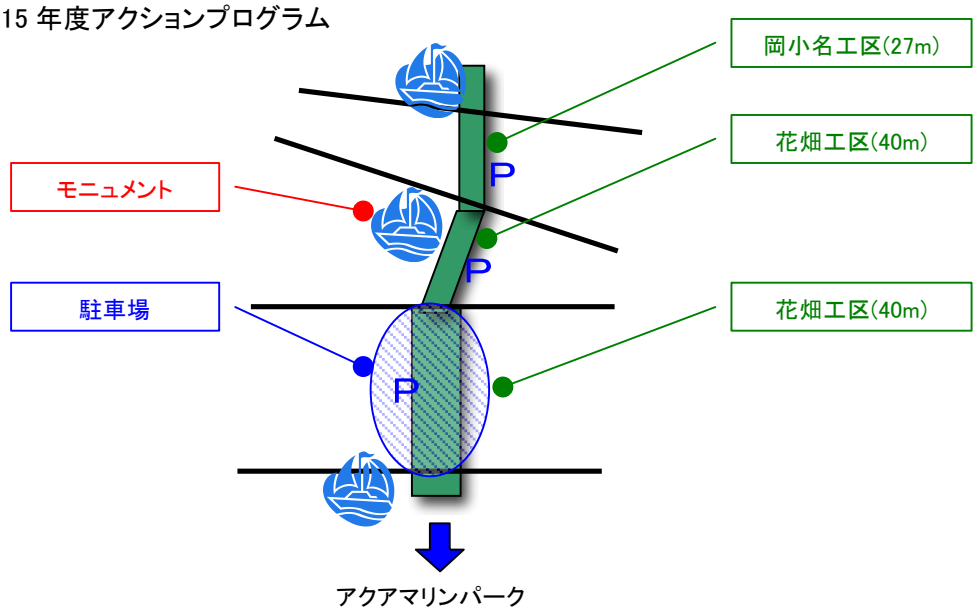
(5)コミュニティバス等の運行

・近隣住宅、中心市街地、アクアマリンパークを回遊するコミュニティバスを運行し高齢者に優しいまちづくりを推進

Ⅴ．グランドデザイン

1，小名浜のシンボル大通り「（都）平磐城線（通称：鹿島街道）」

（1）平成 15 年度アクションプログラム



港まち小名浜の印象をアピールできるシンボル大通りを目指し、緑の高木が映える「白を基調とした壁づくり」などの協定を設け、広い歩道へ「緩やかなWAVE」付けることで波をイメージさせるなどのイメージ作りと、工区の幅員も提案して運動を展開してきた。

【グランドデザインで描いた機能像】

◆　シンボルロードの統一イメージ

・全地区同様の、落葉樹（高木）と常緑樹（低木）で緑の通り

・船のアンカーなどをモニュメントへ利用し、港町の雰囲気付け ⇒

・南欧的な開放感のある光あふれる港町を感じさせる街並み

・全体に白を基調にした壁と、茶を基調とした瓦

・歩道に「小川」が流れる水との触れ合い

・歩道に緩やかなアップダウンを設け、波をイメージ

・街区に駐車場を配し、歩かせる仕掛けづくり ⇒ P

・買収残地を利用してポケットパークづくり

・車道にリサイクル材を利用しての石畳化

・街区内に交番を設置

◆岡小名工区の集積イメージ

・生活商業集積、商住一体型店舗形成

◆花畑工区の集積イメージ

・業務機能集積、業務機能の集中的集約、金融系企業オフィスの積極誘致

◆本町以南工区の集積イメージ

・観光商業集積、低層 3F程度の商業店舗、オープンカフェなど新たな嗜好の商業

（2）これまで活動と進捗状況

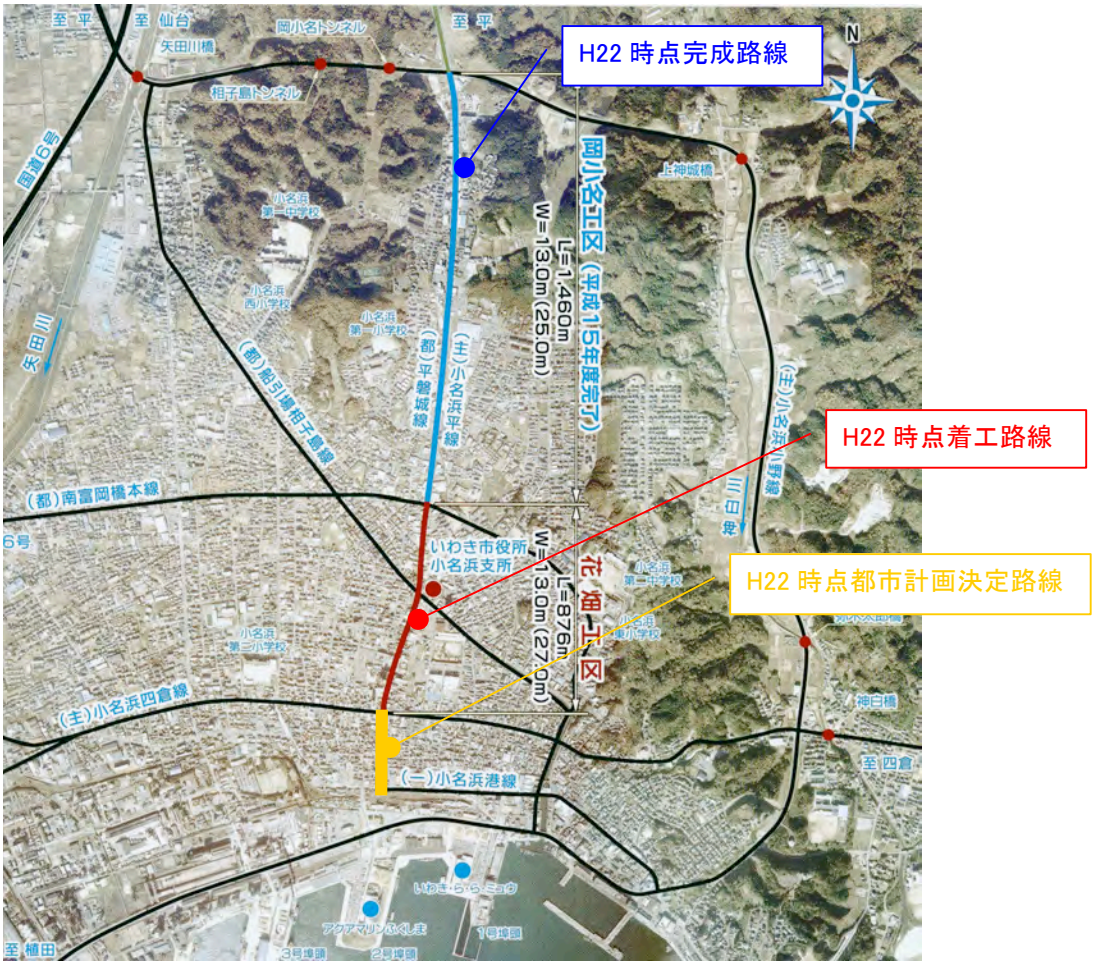
通称鹿島街道を(仮称)緑の大通り=都市計画道路平磐城線として、小名浜のシンボルロードとしていく計画を立て運動を展開してきた。

その結果、平成 18 年度に岡小名工区日産サティオ南側が都市計画決定され、平成 19 年度に買収、工事着工となり現在も工事が進められている。しかし、この区間から 40m の大通りとする計画であったが、時局を受け片側のみの拡幅 27m となるに至った。

それに合わせて、グリーンロード協議会を設立し、市との協議を重ね景観形成重点地区の指定、市民会議メンバーによる対象住居全てへ説明を実施するなど、官民一体となったまちづくりが実ったこととなった。

更に、平成 21 年度には、課題であった港湾背後地の都市計画決定を受け、花畑工区以南も都市計画が決定されるなど、不況の時代においても一歩一歩まちづくりが進んでいる。

案件等	アクション	その後
①岡小名工区	・県、市との定期的な協議開催	
	・開通式等実施	
	・グリーンロード協議会設立による沿線住民の合意形成作業	・大通り全体の組織へ拡充する方向で調整中
②花畑工区	・H16 年度都市計画決定 27m 幅員、片側拡幅	・現在進行中
	・H17 買収、工事着工	
③本町通り以南	・H21 年度都市計画決定	・次の計画策定中
④景観形成	・市景観形成重点地区指定	・条例に合わせて沿線整備



（3）今後 10 年へ向けて

（都）平磐城線は港湾背後地の都市計画決定と合わせて、計画や整備が進められることとなっている。そこで、今後へ向けた望ましい青写真としては、花畑工区小名浜市役所以南の予定通りの着工、合わせて、本町通り以南の早期着工を推進する必要がある。

また、市と市民会議にて協議し進めてきた景観形成重点地区に伴う沿線の統一感のあるまちなみ形成についても、港までの未整備地区も含め沿線地権者の一層の理解を求める活動を推進し、シンボルロードとして相応しく、海が感じられ、統一感のあるまちづくりを進めて行く必要がある。

【総括的な機能導入イメージ】

ゾーン	考えられる具体的機能	実現へ向けた課題
沿線の整備	・小名浜の大通りとして相応しい景観形成	・景観形成重点地区に沿ったまち並みづくり ・港とまちを結ぶ統一された景観基準の延伸 ・拡幅されない側の住民へ、改修時等の働きかけ
	・街路灯設置	・沿線協議会設立による街路灯設置と負担
	・街路樹の整備	・統一された高木、低木、花等の整備
域内幹線ネットワーク	・大通りを核とした周辺道路とのネットワーク化整備	・小名川沿い市道の都市計画決定 ・本町通りの歩道整備、まちなかの回遊路整備
駐車場	・まちなか、沿線随所に配置	・民間駐車場のネットワーク化
ネーミング募集	・新たなシンボルロードとしてのネーミング	・一般公募などにより
アダプトプログラム実施	・沿線組織での自主的な清掃管理、維持管理などの実施	・沿線協議会の設立と街路灯と合わせた維持管理

【具体的提案－1】

■シンボル大通りの形成と土地の有効活用

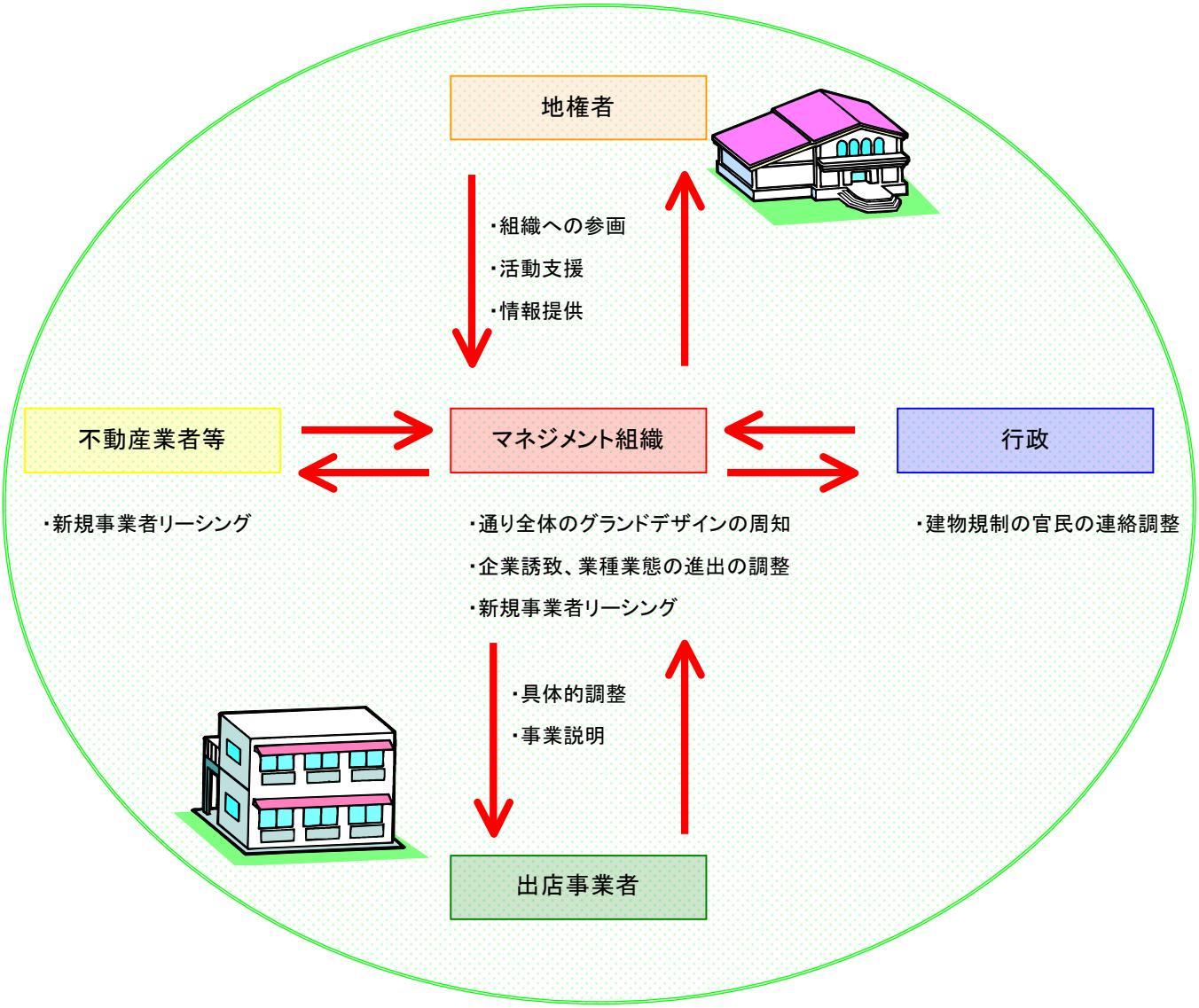
（都）平磐城線の整備が進むにつれて、沿道の建物の建替えも進んできている。この整備については景観形成重点地区に指定されていることを受け、看板や色使いの規制がかかり基準に基づく整備が行われている。

また、街路灯については公的助成制度の摘要が難しいことから、防犯灯の賠償による新規付け替えの形で進めることとなり、明るさの確保も今後の課題となるであろう。

更に、沿線の土地の有効活用を図ることも重要で、当初描いた土地の利用のあり方に近づけるよう、地権者等に働きかけをしていくことが必要である。

そこで、地域で望ましい企業立地、地域活性化のための業種業態誘致を図るため、空き地や建替え時の利用をマネジメントして行く仕組みを考えていくことも必要である。このような仕組みづくりにより、理想⇒現実化に至る過程として、どんな集積が望ましいかを具体的に議論し誘導することが可能となるであろう。

【マネジメント、集積導入のイメージ】



【具体的提案－2】

■景観形成と維持管理の具体的作業

現在花畑工区については、景観形成重点地区として、建物の基準や看板の規制などが条例化され、それに基づきまちづくりが進められている。

今後沿線が延長するに当たっては、この基準を延伸し統一感のあるまちづくりを進めることが望ましい。

下記のまちづくり憲章と基本理念は、景観形成重点地区の制定時にワークショップを開催し、取りまとめた沿線のまちづくりの考え方である。

また、合わせて、沿線協議会を立ち上げることで、街路灯の管理体制の明確化、道路の美化、イベント時の利用の取決めなどの協定を全線に渡り創って行く作業も進めて行く必要がある。

【沿線のまちづくり憲章と基本理念】

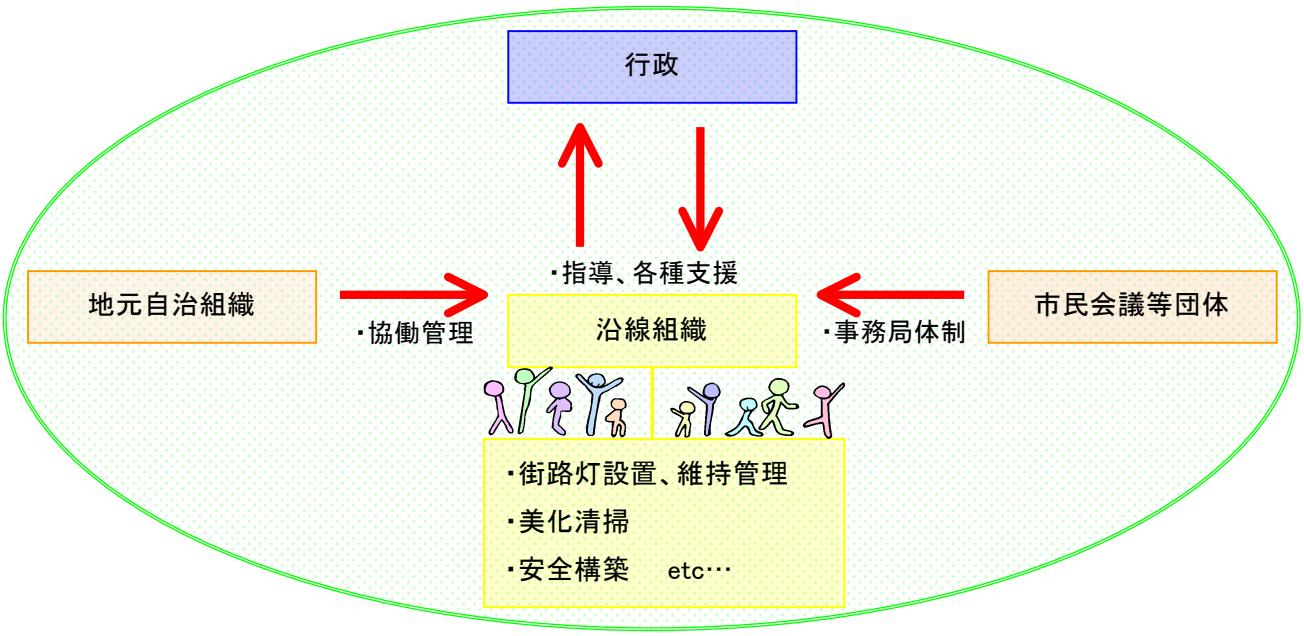
◆まちづくり憲章

都市計画道路平磐城線（通称；鹿島街道）は、
小名浜の港とまちを結ぶシンボルストリートとして、
開かれた国際港湾都市に相応しく、海を感じ、
人が触れ合う街並みであり続ける持続可能な「まち・港・人・まち潮目の大通り」を創ります。

◆まちづくりの基本理念

（1）港からまちへと、まちから港へと人々が行き交う、まちづくりを進めます。
（2）新しい大通り（New）と、既成市街地（Old）との結びつきを大切にした、まちづくりを目指します。
（3）観光客と地域市民が触れ合う、まちづくりを進めます。

【維持管理のあり方】

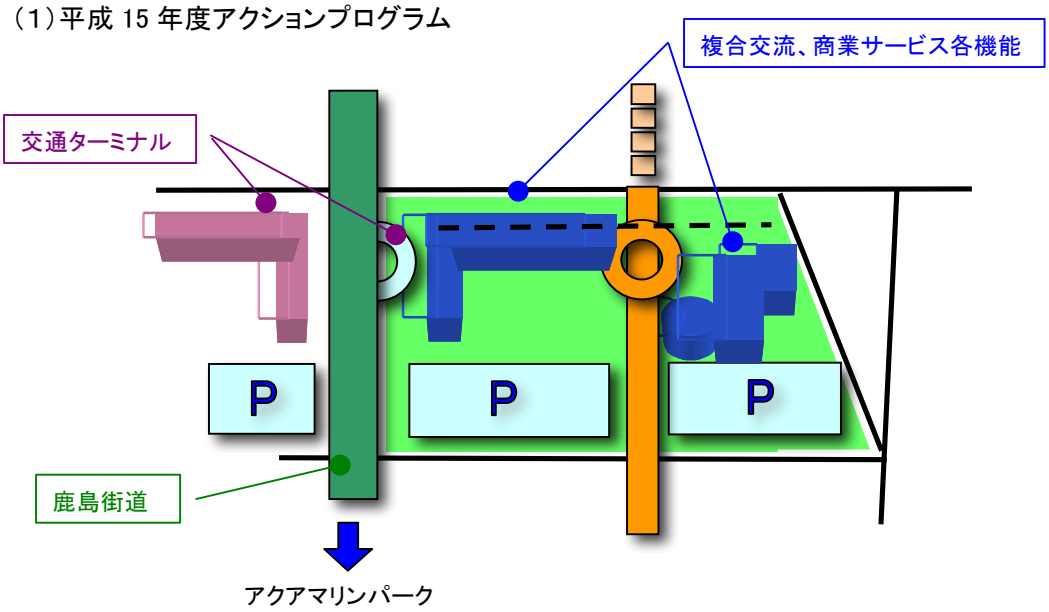


【実現へ向けたアクション】

整備内容	役割り分担			目標年次		
	民間	共同	行政	短期（現在～5年）	中期（5年～10年）	長期（10年以降）
シンボル大通りの早期整備促進						
・官民が一体となった運動と継続協議	○	◎	○	→		
沿道の景観形成と維持管理						
・沿線協議会設立	◎			→		
・街路灯整備手法の検討、設置	○	◎	○	→		
・景観形成重点地区に沿った開発	◎	◎	◎	→	→	→
・街路灯、美化活動等自主管理の実施	◎			→	→	→
域内幹線のネットワーク化						
・小名川沿い市道整備促進	○	◎	○	→		
・本町通り歩道整備	○	◎	○	→	→	
・駐車場等整備、ネットワーク	○			→	→	
・路線の案内充実	○	◎	○	→	→	→

2，海・まち・人の交流と情報の発信拠点となる「港湾背後地」

（1）平成 15 年度アクションプログラム



小名浜の新しい核として位置づけ、港とまちを結ぶ拠点として大きな役割を期待する港湾背後地については、「交流」をテーマに、港まち小名浜発となる海と人の情報の発信拠点、港町と異文化の交流の拠点として、行政機能やコミュニティ機能などを集約した新しい感覚のシティホールづくりにより、小名浜地区全体の拠点性を高める機能を提案してきた。

【グランドデザインで描いた機能像】

◆複合交流機能（シティホール）

・文化・音楽ホール、国際交流施設、NPOの活動拠点、図書館、会議室などの文化交流機能施設

・特徴的デザインの都市シンボル機能施設

・市支所の移転を前提とした、シティホール、国・県の合庁など都市型・港湾サービス機能施設

◆交通ターミナル機能

・高速バス、循環型バスの発着駅とバスプール

・パークアンドライドへ対応した駐車場、タクシープール

・臨海鉄道の旅客化と旅客駅

◆商業・サービス機能

・食や観光商業の入居による、低層で横丁のイメージのハイセンスなSCモールと上層へのホテル機能

・企業や商工会議所の入居による臨海オフィス

・FMサテライトやまちなか案内所などの情報発信拠点

◆背後地へのアクセス

・アクアマリンパークを結ぶペデストリアンデッキ

・まちなかとつながる飲食街づくり

（2）これまでの活動と進捗状況

港湾背後地については、市事務局による連絡調整会議が年１回のペースで開催され、アクアマリンパーク再開発や都市計画道路の進捗などと合わせて、当該地区と周辺開発の連絡調整を実施してきた。

その中でも国有地定西地区が行政と市民とが力を合わせて住民の移転推進を図った成果が実り１件を残しクリアランスが実現。

平成２２年度末には、念願の都市計画決定がなされ、グランドデザインと夢の大きな実現へ向け、次なる一歩を踏み出した。

案件等	アクション	その後
①国有地　定西地区	・市、区長会、市民会議にて協議会設立、１件を残し住民に移転先を斡旋するなどのアクションを展開	・今後交渉継続
	・高速バスターミナルを実現	・東京、福島、仙台便運行
	・イベント時臨時駐車場へ暫定的利活用	・利用拡大中
②臨海鉄道ヤード	・H21 年度都市計画決定	・次の計画策定中
	・敷地内の緑地(面積のみ決定)、都市計画道路計画決定	
	・H22 市による開発ビジョンの策定	
③日本化成北側敷地	・H21 年度都市計画決定	・次の計画策定中
④都市計画道路平磐城線	・市、県の協議により、港湾背後地都市計画決定	・次の計画策定中

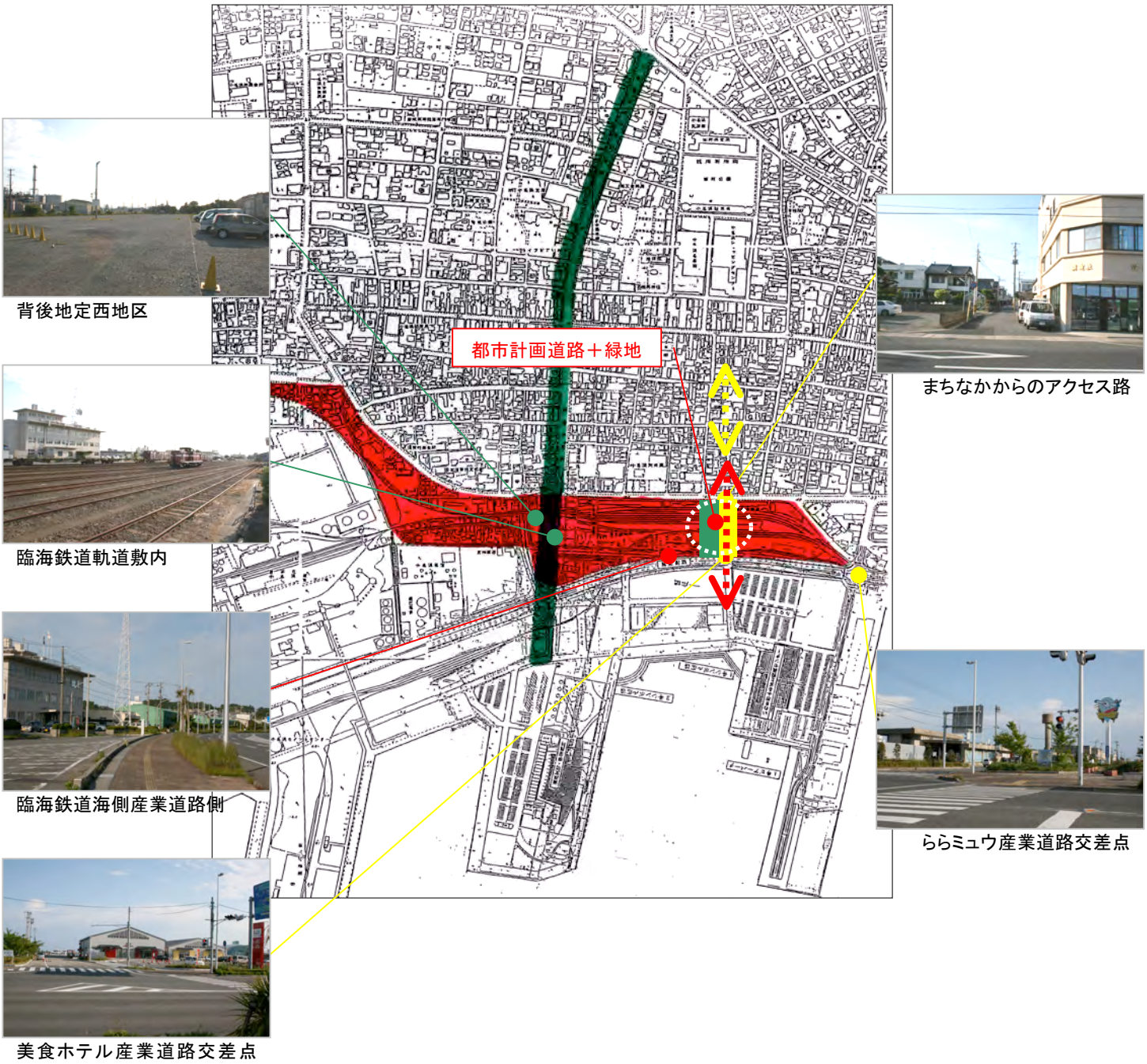
（3）今後 10 年へ向けて

港湾背後地の今後へ向けては、望ましい利用計画づくりの必要性、区画整理手法の取り入れ、開発デベロッパーの選考などハードルは低くはないのが実情である。

また、時代の経過と共に、当初描いたビジョンが開発行為として実現が難しくなっていることも事実である。

そこで、次の 10 年へ向けて、経済低迷・低成長の時代に即した開発はどのようなものなのかを探る必要性がでてきている。また、敷地的にそれほど広くないことから、配置する機能を集約、選択することが必要である。

市民会議でも、開発ビジョンやグランドデザインに沿って、企業のリーシングや情報提供を行うなど、官民が力を合わせて、次の 10 年へ向けて持続可能な行動計画を創り上げて行く必要がある。



【総括的な機能導入イメージ】

ゾーン	考えられる具体的機能	実現へ向けた課題
公共・コミュニティサービス	・国、県、市の合庁(市港湾部門を小名浜へ)	・民間建設⇒行政入居のシステムづくり ・国、県、市の合意形成
	・市小名浜支所の移転	・市内の都市内分権の協議 ・地元市民との話し合い ・利便性の確保へ向けた協議
	・バスプール、タクシープールなど交通ターミナル施設	・高速、循環バス等の路線維持 ・パーク＆ライド機能の検討 ・まちなか＆病院＆近隣住宅地循環バスの運行検討
	・外国船員などの船員施設(シーメンズクラブ)	・横浜の事例などを研究しソフト機能的に実験
商業サービス	・非日常を主体とした商業施設(スーパー銭湯、シネコン etc…)	・デベロッパー選考 ・市街地との機能分担、商業者との調整
予防医学・医療施設	・滞在型の予防医療施設 ・高度先進医療施設 ・日常＆非日常利用可能な温泉保養施設	・デベロッパー選考
大学学部	・海洋学部など専門的な学部	・大学専攻
駐車場	・1,000 台規模を充実	・デベロッパー選考 ・高層自走式駐車場建設

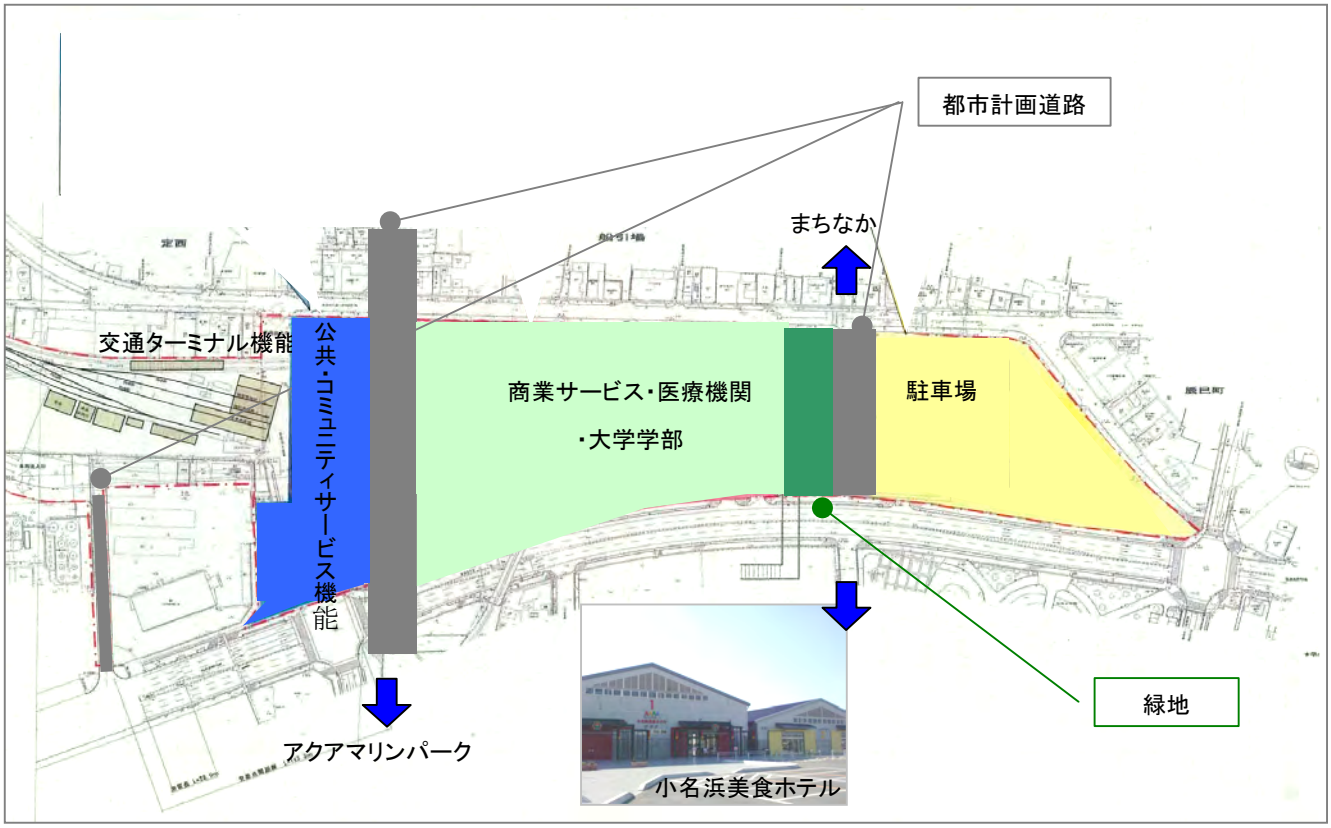
【具体的提案－1】

■港湾背後地の土地利活用

港湾背後地の土地利用では、時代背景から従来考えていた大規模都市開発は厳しくなってきている。また、背後地開発のコンセプトでもある「海・まち・人の交流と情報の発信拠点」を捉えて開発を進めて行くため、地域にとって、来る人たちに「日常 or 非日常」かを踏まえた機能配置を行う必要がある。

従って望ましい具体的機能としては、国・県・市の合庁が入居する公共・コミュニティサービス機能、交通ターミナル機能、気候の温暖さを活かした予防医学や医療施設、大学の海洋学部などの誘致を考えたい。

【機能導入のイメージ】

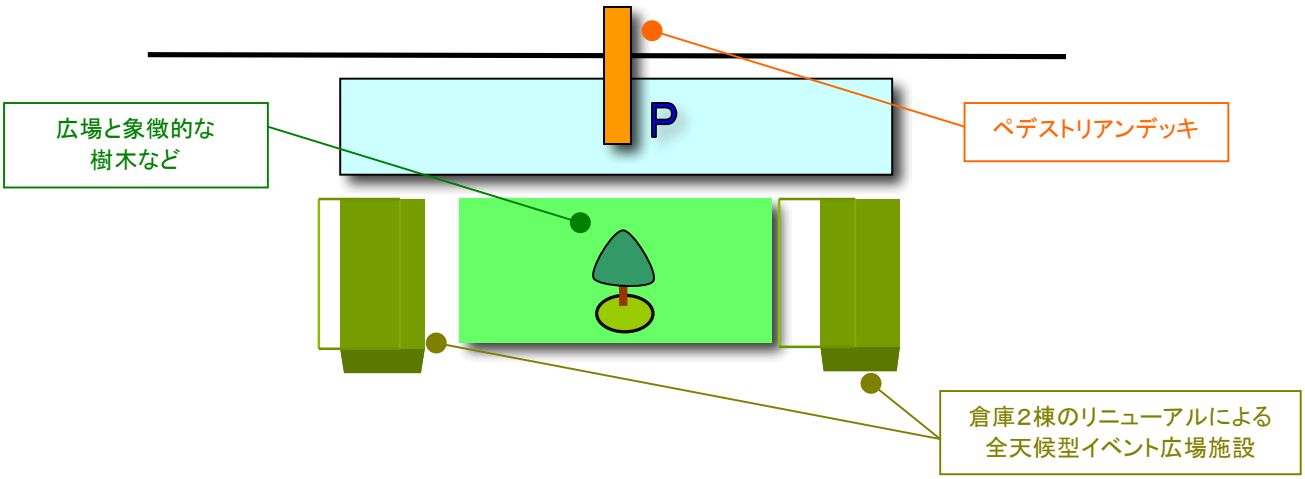


【実現へ向けたアクション】

整備内容	役割り分担			目標年次		
	民間	共同	行政	短期（現在～5年）	中期（5年～10年）	長期（10年以降）
定西未解決地の対策						
・解決へ向けた地権者との協議継続	○	◎	○	→		
ゾーニングと配置する機能構築						
・地域、行政による定期的な進捗打合せ	○	◎	○	→	→	→
・開発可能な事業体、施設の研究	○	◎	○	→		
・連絡調整会議の定期的開催			◎	→	→	→
デベロッパーの誘致						
・開発業種に合わせたデベロッパーリーシング	○	◎	○	→		
・開発スタート	◎				→	→

3，賑わい交流空間と新たな港の産業「アクアマリンパーク」

（1）平成 15 年度アクションプログラム



親水空間としてたくさんの人々を集めているアクアマリンパークの整備に関しては、港湾背後地と一体となった整備を図ることを前提に検討。

県内最大の交流空間となったエリアの次の課題として、倉庫群再生が考えられ、長期的には新たな再生施設整備。短期的かつ暫定的には、倉庫の簡単な修繕により、全天候型のイベント広場づくりを行い、賑わい空間の機能強化へとつなげて行くことを提案してきた。

【グランドデザインで描いた機能像】

◆短期的・暫定的に両端倉庫2棟を残した全天候型多目的広場の整備
- ・両端2棟をリニューアルした全天候型施設への利用
- ・倉庫撤去地を中庭として、賑わい広場利用

◆多目的利用への対応
- ・イベント等へ対応できる電源、上下水道設備

◆賑わいづくりのソフト
- ・若者たちに人気の、スケボーや BMX などストリート系スポーツのできる場への活用
- ・遠足や修学旅行など学習教育の場へ利用できる場への活用
- ・まちなか案内所機能の拡充
- ・各種団体等のイベントへの活用
- ・オープンカフェなど小名浜での新たな賑わいづくりの空間への活用

（2）これまで活動と進捗状況

アクアマリンパークは、平成 15 年に国のみなとまちづくり事業の採択により、倉庫地区連絡調整会議が開催され、以後国・県・市・市民会議の役割分担により、平成 20 年 4 月に 1・2 号棟が整備完了。全体総称を小名浜さんかく倉庫・小名浜美食ホテル・小名浜潮目交流館がオープンした。

整備の内容もグランドデザインで描いたイベント等への利用が促進され、全国的にも脚光を集めるエリアへと成長した。

案件等	アクション	その後
①倉庫地区再開発	・倉庫地区連絡調整会議開催	・倉庫再開発の発進
	・H18 年 1・2 号棟整備スタート	・H20 年整備完了
②小名浜美食ホテル	・H20/4 オープン	・H21 年 75 万人
③小名浜潮目交流館	・H20/4 オープン	・H21 年 120 件
④周辺駐車場整備	・H21 年北側駐車場仮整備	・可能台数増加

【小名浜美食ホテル内外観】

まちなか案内所

イベント風景

【小名浜潮目交流館内外観】

イベント風景

イベント風景

イベント風景

（3）今後 10 年へ向けて

アクアマリンパークの今後へ向けては、当初一括整備であったが未整備となっている 3･4 号倉庫の整備を進める必要がある。また、現在県内最大級の観光交流スポットへと成長したものの、整備促進やイベント誘致により、常に新しい側面を創り上げて行くことが、永続的な賑わいへとつながっていくことから、このような視点を持ち続けて行くことが重要である。

アミューズメント機能、ライトアップ事業などにより夜の賑わい度のアップ、イベントについても「ここでしか…」といったスケールメリットを活かしたイベントを積極的に誘致することを進めて行く。

また、東港へつながる臨港道路橋梁を新しいランドマークとして位置づけし、橋梁へ架かる 3 号埠頭と東港にも、市民が集まる緑地や交流施設など単なる整備ではなく、橋と合わせた景観形成を進めることで、アクアマリンパークを中心としたゾーンが拡がって行くことを目指す。

地域の再生へ向けて、賑わい空間としての継続と、新たな港の産業づくりを官民が力を合わせて、次の 10 年へ向けて持続可能な行動計画を創り上げて、更には、港湾背後地、漁港地区との連携を深めたコンセプトにより整備を進めて行く必要がある。

【総括的な機能導入イメージ】

ゾーン	考えられる具体的機能	実現へ向けた課題
3･4 号倉庫	･4 号棟(展示、小ホール) ･さら地による新たな利活用法	･県での整備へ向けた機能の調整 ･運営組織の明確化
	･3 号棟(全天候型イベント広場) ･さら地による新たな利活用法	･県での整備へ向けた機能の調整 ･運営組織の明確化
パーク内のライトアップ	･北側駐車場を中心とした照明、照度アップ ･3 施設が連携し色などを統一した海側のライトアップ	･事業主体検討、事業費捻出 ･3 施設の協力、協調
駐車場整備	･3 号埠頭側県港湾用地の駐車場としての整備	･県での整備へ向けた機能の調整
アミューズメント施設	･観覧車等の新たな誘客アミューズメント施設の誘致	･行政間の誘致手法検討、調整
情報 INFO 機能	･パークのイベント情報などを紹介	･潮目交流館内に整備
3 号埠頭東側･東港臨港道路、橋梁	･東港整備に合わせた緑地、交流空間施設の整備 ･新しいランドマークとしての活用促進 ･橋のライトアップなどパークとのつながりづくり	･維持管理と利活用法 ･ライトアップの手法等検討 ･小名浜港全体の景観形成

【具体的提案－1】

■アクアマリンパークの整備

アクアマリンパークは、昼や休日・限られたシーズンの賑わいだけではなく、年間を通した賑わいを創造する必要がある。

特に 3・4 号倉庫の早急な整備を図る必要があり、このままの状況で経年するのであれば、さら地にして別な利活用を図るのも一つであろう。

また、全体的に夜の風物詩となるようなライトアップ、イベント情報インフォメーション、夏場の日陰となる緑地、多くの誘客が可能となる駐車場の整備が必要である。

更に、新たな機能創造のため、観覧車などの遊園機能の誘致を進めることで、更なる賑わい空間としての機能の充実を図る必要がある。

【整備促進の提案】

【具体的提案－2】

■アクアマリンパークの賑わいづくりの継続

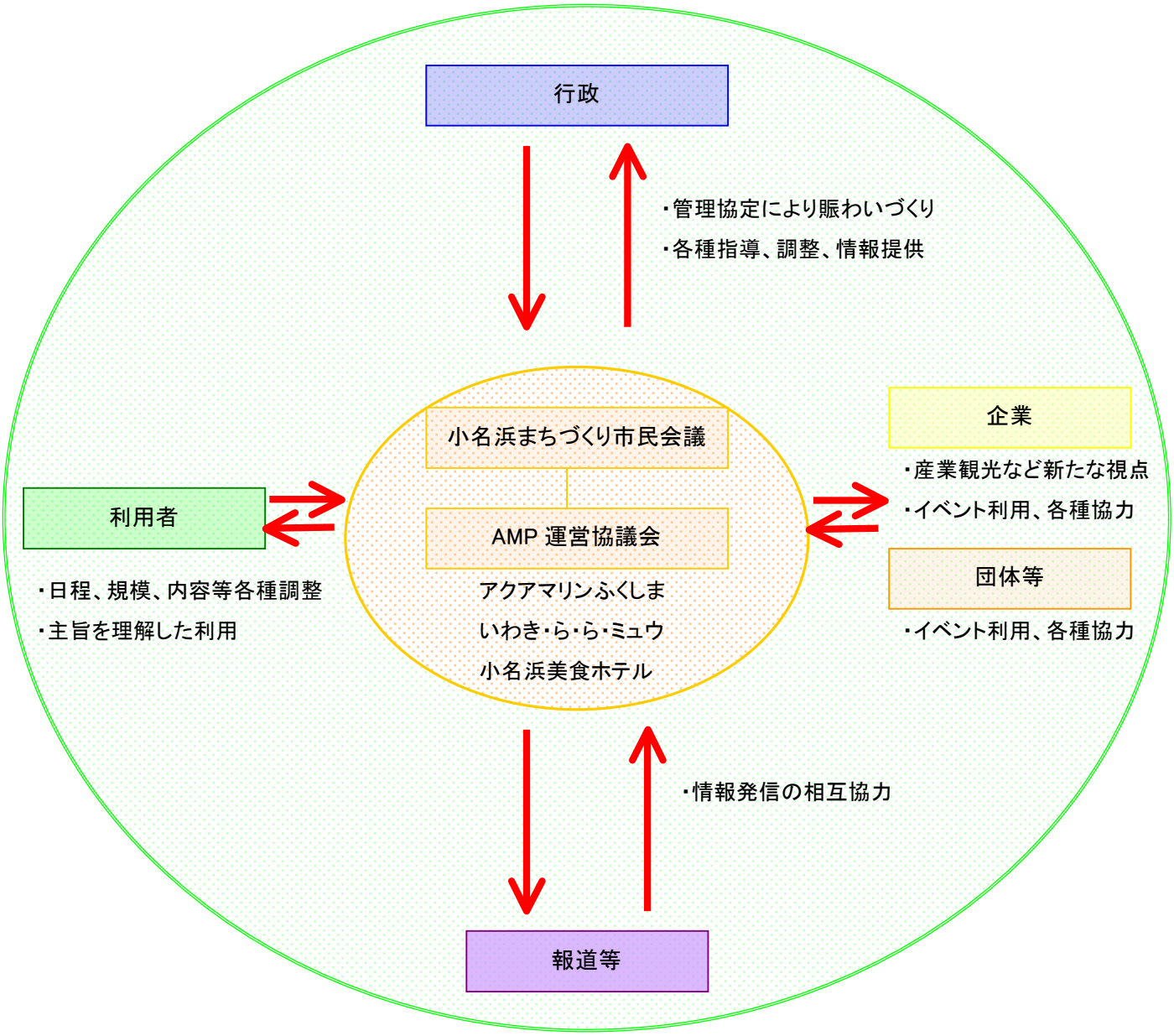
アクアマリンパークは、年間 100 事業ほどのイベントが開催され、合わせて小名浜潮目交流館との同時開催イベントも多数開催されている。

そこでイベント情報のインフォメーションブースの設置をすることで、多くの方々に情報を伝える機能を整備する必要がある。

また、賑わいづくりの管理協定に基づき、常にイベントが開催されている状況を継続するために、スケールメリットを活かしたイベントの誘致、促進を始め、全体をプロデュースする機能を充実させる必要がある。

更に今後違った側面をパークに持たせ新たな賑わいへとつなげていくため、地域企業と連携を図り、産業観光、体験型観光などと結びつけることで、いわき全体の交流が促進されるであろう。

【プロデュースのイメージ】

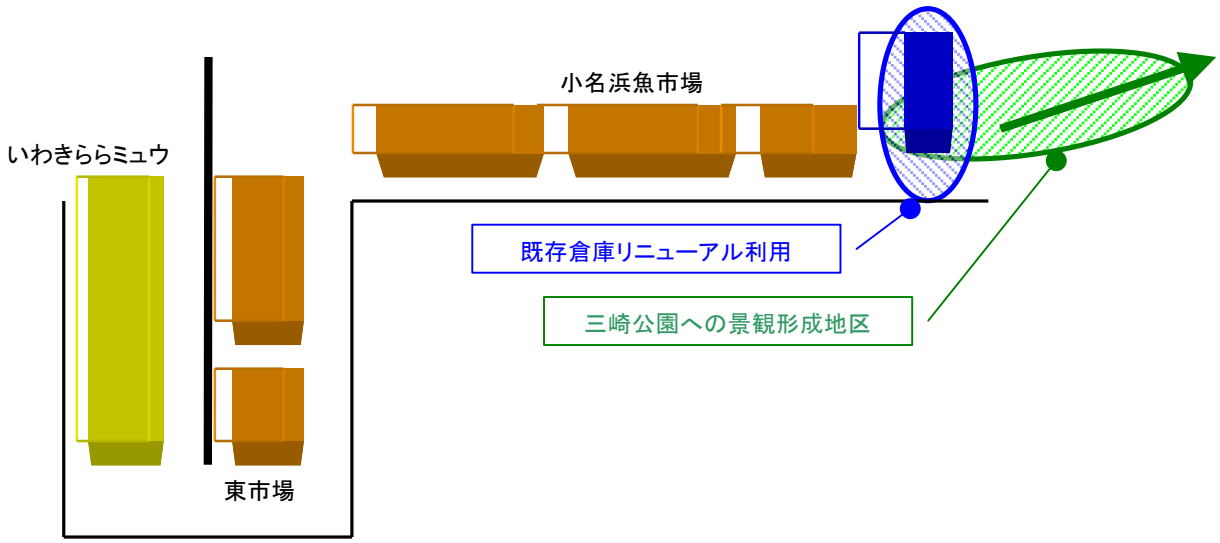


【実現へ向けたアクション】

整備内容	役割り分担			目標年次		
	民間	共同	行政	短期（現在～5年）	中期（5年～10年）	長期（10年以降）
3･4号倉庫の整備						
・県での整備へ向けた機能の調整			◎	→		
・運営組織の明確化	○	○	◎	→		
・さら地による新たな利活用法の検討		◎		→	→	→
パーク内のライトアップ						
・北側駐車場を中心とした照明、照度アップ			◎	→		
・3 施設が連携し色などを統一した海側のライトアップ	○	◎	○	→		
駐車場整備						
・3号埠頭港湾用地の駐車場としての整備			◎	→		
アミューズメント施設誘致						
・広く意見を集め誘致運動	○			→		
・整備手法の検討、調整			◎	→		
東港地区						
・3号埠頭東側、東港			◎	→		
・臨港道路橋梁			◎	→		
・小名浜港の景観形成	○	◎	○	→		
アクアマリンパークのプロデュース						
・ネットワーク強化、情報交換	◎	◎		→	→	→
・産業観光など、新たな視点の促進	◎			→	→	→

4，漁業の再生と魚市場の今後「漁港区」

（1）平成 15 年度アクションプログラム



漁港区については、港町小名浜の漁業文化再興のため、ハード的に、中央市場の機能的分割や市場施設の再生を図ると共に、ソフト事業としてな食の街道づくりや観光競り市など新たな視点での再生を組み合わせて行うといった提案をしてきた。

【グランドデザインで描いた機能像】

◆1号埠頭上屋の利活用による活魚や干物など、新鮮さを活かした食の街道づくり
- 漁業と魚市場の再生へ向けた新たな展開づくり
- 観光漁業の展開、観光競りの定例開催
- 港と市場の直結による、新いわき中央卸売市場づくり
- ハセップ対応、組合の組織改編と統合化促進による基盤強化
- 市場から三崎公園までの導線の景観形成
- 現在使用していない老朽倉庫の解体と跡地利用

（2）これまでの活動と進捗状況

全国的に漁業が衰退の一途をたどる中、漁港区については、漁業者を中心に再生のシナリオを検討してきた。

また一方では、平成 24 年を目処に老朽化した市場上屋の取り壊し案や、機能的再生を模索し、建替えする案など議論が続けられている。

そこで、行政、漁業者、市民会議など地域が一丸となり、魚市場の再生のあり方、魚食の普及などハード面の検討、ソフト事業のアクションなどを進めている。

また、アクアマリンふくしまでも「よみがえれ漁業」と題して、うおのぞきのオープンや大漁旗コンテストなどで漁業を応援している。

案件等	アクション	その後
①魚市場検討会議	・官民が一体となった再生のあり方の協議	・進行中
②魚市場まつり	・市場を利用しての漁業、魚職の PR	・進行中
③カツオまつり	・カツオの普及 ・カツオのぼりなどカツオのまちを PR	・進行中
④船方さん上映会	・小名浜を舞台とした映画を上映	・H22 年上映

（3）今後 10 年へ向けて

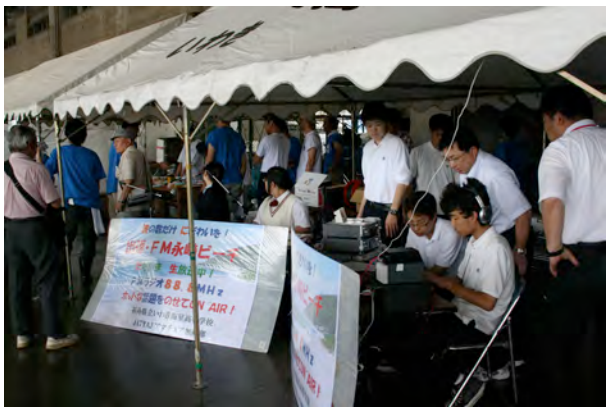
漁港区の今後へ向けては、時代に合わせた漁業の再生を地域全体としてどのように捉え、進めて行くかが大きな鍵を握っている。

小名浜魚市場の建替については、物量に合わせた再生、民設民営、組合の再編など抜本的な対策など様々な視点で議論がされ、方向性としては民設民営での形が模索されている。

しかし魚市場の老朽化問題にとどまらず、魚市場全体の機能として、生産⇒流通⇒消費を見直す第 6 次産業化を図るなど、新しい仕組づくりに取り組む必要がある。

また合わせて、古湊地区を含めた市場周辺に築地市場の場外のような港まちを感じさせるまちなみの誘導を図っていくことで漁業の再生へとつながっていくであろう。

【魚市場まつり】



【総括的な機能導入イメージ】

提案	考えられる具体的機能	実現へ向けた課題
・使用できない老朽化施設を含めて取り壊し再開発	・民設民営による規模相当の新たな市場機能構築 ・市場機能をいわき市中央市場移転を含め「生産市場と流通市場」が共存する新たな運営方法 ・いわき市水産業活性化懇談会の活発な活動と地域との連携強化	・運営主体の検討 ・整備費の捻出 ・行政と民間の協力体制構築
・第 6 次産業へのステップ	・漁業界、加工業界、地域、消費を結ぶネットワーク構築 ・地域と連携したカツオのまちの PR	・中卸し業者、流通業界との連携
・魚市場周辺のまちなみ整備	・築地場外のような誰でも買える賑わい市場の整備	・計画立案と、市場周辺で現在事業を営んでいる事業者の事業継続 ・事業者の新規誘導

【具体的提案－1】

■第 6 次産業へのステップのイメージ

小名浜港水揚げの魚を使い、生産(漁業)を行う第１次産業、みりん干しやかまぼこなど加工を行う第２次産業、流通販売を行う第 3 次産業を一貫して行うことが、第 6 次産業として注目を集めている。

そこで、小名浜独自の港まちと名産品のイメージアップ、名産、名物づくりと新商品開発、B 級グルメ開発、地域を上げた魚食、魚が食べられる店などの PR などにより、生産と流通を結び、環境との共生へ結びつける第 6 次産業を創り上げる。

【地域ブランドづくりによる生産体制確立(三浦鮪ブランド)】

マグロトロまん

ブランド逸品

マグロラーメン

大人気マグロソースカツ丼

【小名浜での名物 B 級グルメ考察】

B 級グルメが全国的なブームを呼んでいるが、その多くはもともと地域に根ざした食べ物であることがブームのキーワードとなっている。

小名浜の名物を使い B 級グルメなどで新商品を開発し、第6次産業の推進を模索する。

鯨丼

みりん干しのてんぷら

【具体的提案－2】

■市場周辺の賑わいづくり

漁業と魚市場の再生と合わせて必要なのが、周辺の賑わいづくりであろう。

周辺に市場の雑多な賑わいのある魚屋、飲食店などを配することで、日常では地域市民の台所となり、非日常では観光客も買い物が出来る場になっていく。

運営等については、漁業の第 6 次産業化と合わせて漁業関係者の新たな組織を立ち上げ事業化することも検討の視野に入れることも重要である。

【市場周辺築地化計画】

【具体的提案－3】

■大型船舶の周航へ向けて

東港の整備と共に橋の高さの問題から、飛鳥Ⅱなどの大型船はアクアマリンパークに入港できなくなる。また、漁船の大型化も年々増していることから、アクアマリンパークに入港するイベント船、漁港への大型船入港のため、防波堤の一部入港路として開ける工事を早急に実施することが望ましい。

【入港路の確保】

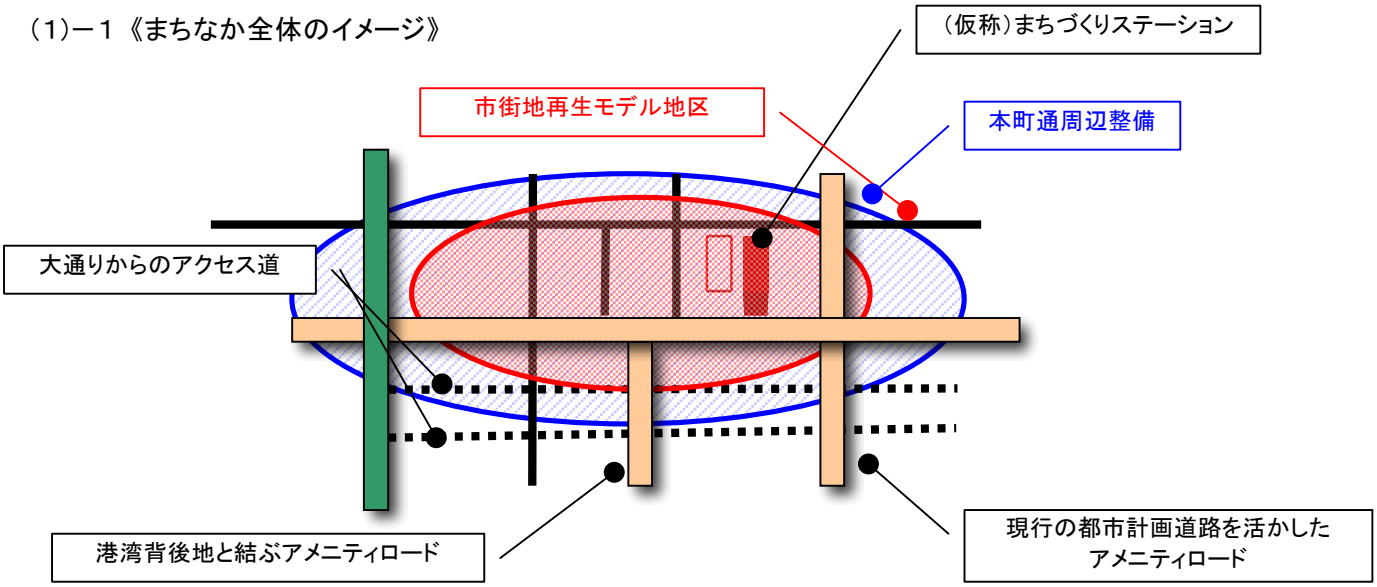
【実現へ向けたアクション】

整備内容	役割り分担			目標年次		
	民間	共同	行政	短期（現在～5年）	中期（5年～10年）	長期（10年以降）
水産業の活性化						
・第6次産業の推進	◎	◎	◎	→	→	
・組織のあり方、再編の検討	◎	◎	◎	→		
小名浜魚市場の整備						
・魚市場検討会議の協議	○	◎	○	→		
・小名浜魚市場の整備	○	○	◎	→		
・新しい魚市場機能の活用	○	◎	○	→		
市場周辺の整備						
・築地場外のような賑わいづくり	◎	◎	○	→	→	→

5，小名浜庶民のまちなかの再生

（1）平成 15 年度アクションプログラム

（1）－１《まちなか全体のイメージ》



小名浜の中心市街地は、リスポを中心とした商店街、歓楽街などが集積し小名浜の昼と夜を支えてきた。

そこで、地域市民がまちなかで生活環境して行く上で必要な機能として、リスポと商店街を一体の商業床と考え、個性化・差異化による商業集積と、商住一体型の店舗形成を提案。また、高齢化社会への対応として、快適な歩行空間づくりや集合住宅・医療・福祉の施設なども加味してきた。

他方、商店街と表裏一体となる竹町繁華街地区は、雑多な小名浜らしさと人情味にあふれる食と娯楽を提供する地区として、港町を感じさせる仕掛けづくりなどを基本としたまちづくりを進めてきた。

【グランドデザインで描いた機能像】

◆生活者主体の個性的で差異化を図った商店街整備
- ・セットバックを行い、店頭へ緑と駐車場を配するなど、まちづくり協定づくり
- ・車輌相互交通確保とキャブ化による快適な歩行空間と、気軽に止れるパーキングメーターなどを兼ね備えた歩道整備
- ・商住一体型店舗開発、共同店舗づくりなど個別的ハード設備の促進
- ・（仮称）まちづくりステーション小名浜づくりと、その周辺を市民会議プロデュースの通りづくりによるモデル地区としての市街地再生事業
- ・まちなかへの交番の誘致

◆小名浜らしい雑多な雰囲気を持つ食と娯楽の街並み
- ・現在の横町通りと都市計画を活かした背後地と結ぶアメニティ道路
- ・竹町通りを活かしたアメニティ道路（アジア香りの漂う異国情緒あふれる通りへ）
- ・点在するお店の共同店舗化による集約の推進

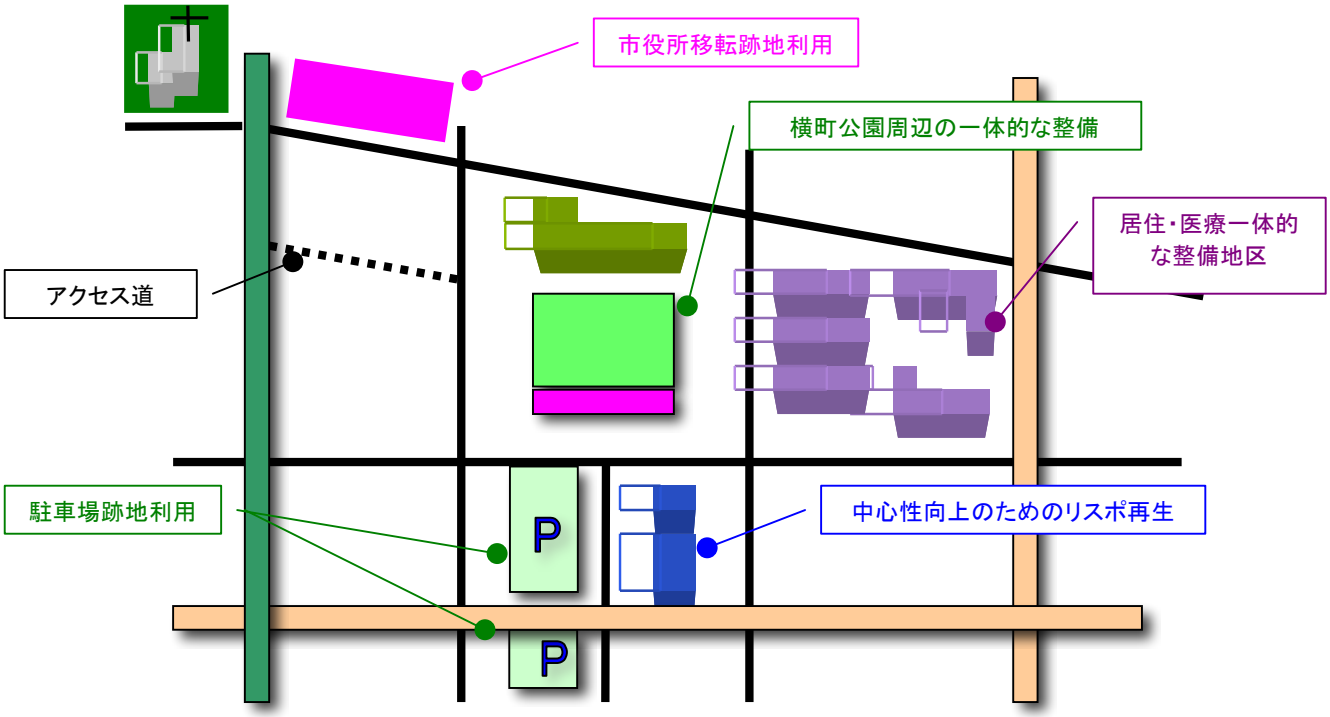
◆緑の大通りからの誘導路となる横道づくり

・特に整備を行わない自発的な通りづくりと、名称付けによる小路迷路マップづくり

◆港湾背後地と結ぶアメニティ道路

・横町通りの都市計画道路としての整備促進と背後地整備に合わせた竹町通りの賑わいづくり

（1）－２《リスポ周辺から市役所周辺のイメージ》



【グランドデザインで描いた機能像】

◆リスポ・OSCエリアでのまちなか中心性向上

・リスポを中核とした、まちなか商業の再生

・商業施設内へ医療などのテナント誘致、ヤル気のある起業家への積極的な支援

・高齢化対策を見据えた、住居・医療・商業が一体となった整備

・まちの中心性を向上、まちの再生のため、OSC跡地土地早期取得

・地福院周辺の緑化と景観整備

◆支所移転後のタネ地等土地有効活用

◆横町公園を活かした形での一体的な整備

・武道館立地が公園と一体となった形での、保育所・老人ホーム・福祉施設・生涯学習施設の整備

・緑の大通りからのアクセス道整備

・まちなかの憩いの空間として公園全体の再整備

◆駐車場跡地の地域と密着した新しい利用法

・電源・水道設備の設置によるイベント広場

・地域自主管理体制の構築

・公園と一体となった整備を図るため、公園利用者への駐車場整備

（2）これまで活動と進捗状況

まちなかでは、前回のグランドデザインで本町通り商店街のセットバック、リスポ周辺の高齢化住宅などの抜本的なハード提案と、居住を支える最低限の商業施策として普段着の商店街としてのまちづくりを軸とした各種提案をしてきた。

しかし、都市計画への位置づけがないことや、地権者・商業者の理解が必要なことから、大きくは進んでいないことが実情である。その中でも、旧小名浜ショッピングセンターの駐車場化、リスポ北側へのマンション建設、旧清水屋への特優賃住宅建設は、まちなかの居住を支える事業として変貌を遂げた。

その他、ソフト事業では、まちづくりステーションの機能的整備、まちなかのイベント実施などは進めてきたが、今後は、当事者である商業者の積極的な参加が期待されるなど難しい側面も残している。

案件等	アクション	その後
①本町通り電柱民地移設	・H17 銀座街区、西町街区歩道の電柱を移設	・中島街区は拒否
②リスポ周辺再開発	・H18 マンションオープン	・入居者増加
	・H21 市営駐車場跡地公売へ(横町公園となり)	・買い手つかず
③まちづくりステーション	・H16 オープン	・周辺に飲食店が立地
④支所一部機能の議論	・H20 市民参加での各支所機能のあり方などを議論 ・港湾背後地連絡調整会議であり方を議論	・継続検討

（3）今後 10 年へ向けて

まちなかの再生へ向けて重要な視点は、まちの歴史・文化であろう。小名浜のまちなみは、磐城七浜絵巻でも描かれたようにまちの体系は大きく変貌しているわけではない。また写真屋さんが多い、歓楽街があるなど漁業を生業としてきたまちの様相が未だ色濃く残っている。

また現在、生活に必要な最低限の商業機能であるとか、高齢化社会に対応した機能を選択と集中させていくことが重要である。大きな大改修を図るのではなく、漁業で発展してきた背景を踏まえ、まちの機能の修復を図っていくことをテーマとして掲げたい。

このことを踏まえ、商業面では、リスポを中心とした生活を支える商業機能、合わせて地域を上げて鰹やメヒカリのまちとして名物づくりをして行くことで、漁業との連携、観光商業との関連が図るなどソフト事業を取り組みを強化していく。また空き店舗を一括で管理し商店街の集約化を図るなどといった斬新的な手法も必要であろう。

一方、高齢者への対応としては、周辺地域を循環する乗り合いワンストップバスの周航などの機能的整備、歩いて安心安全なハード整備などコンパクトシティ化を促進させる。

更に市内でも都市内分権を含め、地域でも議論を呼んでいる支所のあり方については、コンパクトシティの考え方に基づき、まず機能のあり方を考えていくことがポイントであろう。高齢化対応、交通対策などまちの機能の選択と集中を考えていくことで、機能的な集約が図られる。おのずと港湾背後地への機能的移転は適切であろう。

【コンパクトシティとは…】

日本の多くのまちでは、中心市街地から郊外へ住宅建設が見られ都市の空洞化が進んできた。それにあわせて、車社会化が進み合わせて道路などの整備が進む。すると幹線道路沿いには、広い安い敷地を求めファミリーレストランやショッピングモールが立地し、人口重心の郊外移転が進行してきた。

そうなると当然まちなかの商業地や居住地が衰退していくこととなったが、高齢化社会などに対応し、また景気低迷が続く中、財政支出の軽減を図る目的から、都市の郊外化やスプロール化を抑制し、市街地のスケールを小さく保ち、都市部へ人口の集中を図る視点から様々な都市開発を進めることがコンパクトシティとして総称される。

地方都市しては、主に都市計画から位置づけされ、それに沿って個別具体な都市整備が進められる。

しかし近年は、コミュニティバスの運行、農商工連携による第 6 次産業を取り入れるなど、民間での取り組みも積極的に進められており、まちの顔も新たな側面を見せている。

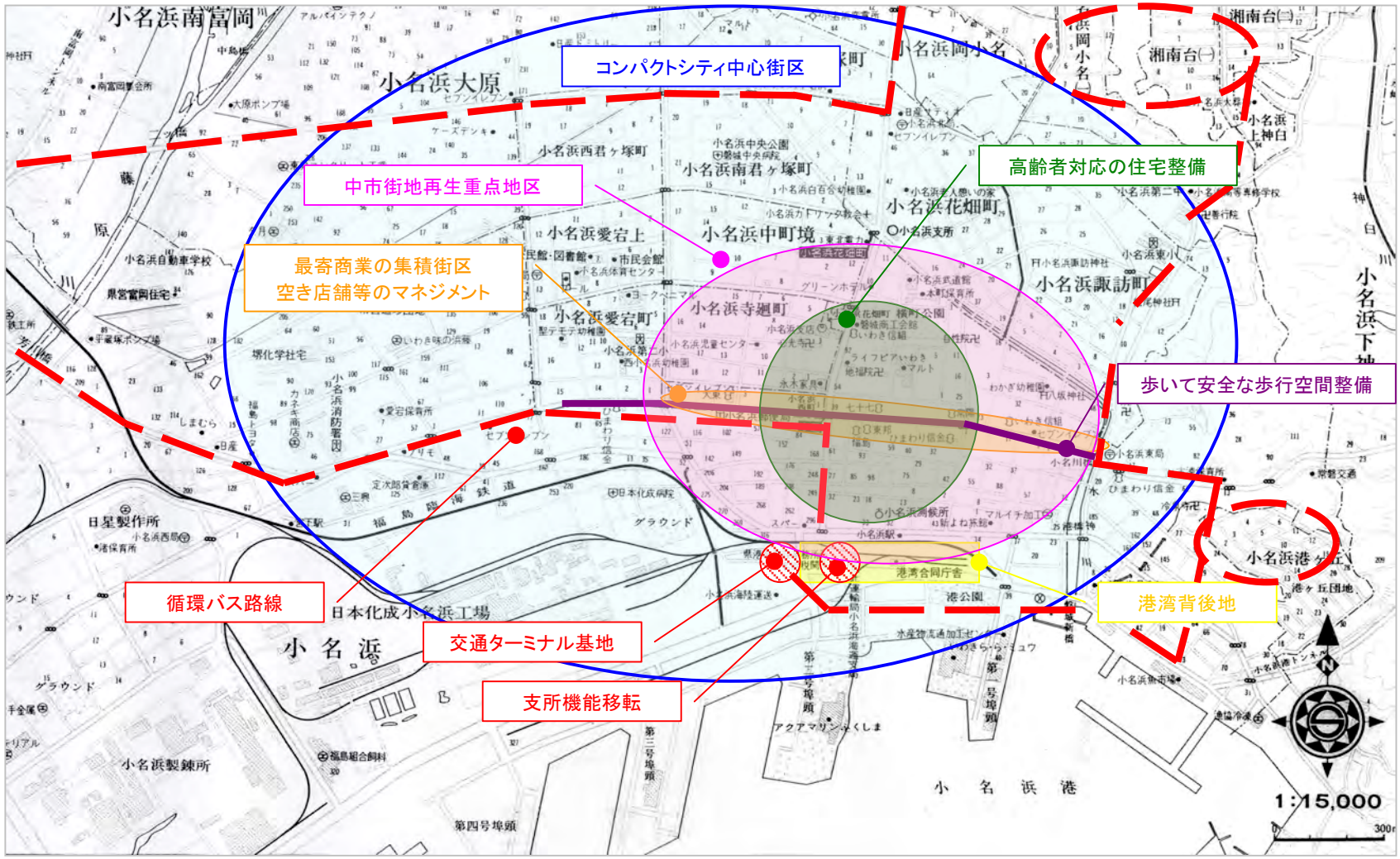
【メリットとして…】

1, 自動車中心の社会から移動手段の無い高齢者に便利である。

2, 郊外開発の無秩序さから一転し、環境保護などもあわせ持続可能なまちづくりが可能である。

3, 郊外へ公共投資が抑制され、都市部の税収が確保されるため、公共投資の効率化が図られる。

【コンパクトシティを目指したまちの体系】



【全国的な取り組み】

◆仙台コミュニティバス（100 円まちなか周遊、観光や身近な足に）

仙台市内を周航する 100 円乗り合いバス。地域住民や観光客などの身近な足として人気。

◆山形上山再開発ビル　カミン（行政の窓口と商業施設を合体）

上山市中心地の再開発ビルとしてオープン。
公民館的機能、行政サービスの窓口機能を併せ持っている。

◆青森市多目的交流広場　パサージュ広場（まちの空き地をアクアマリンパークのように利用）

青森市は、駅前再開発などコンパクトシティのまちづくりが進んでいる。
その中でも都市の空き地を、管理運営協定を結びイベントや屋台村などに運営している。

◆世田谷地ビールレストラン（農村部との連携）

市民運動のさきがけである世田谷区だが、農村部と連携を結び第 6 次産業となる農家レストランをオープン。
都心の身近なオアシスとして人気である。

【総括的な機能導入イメージ】

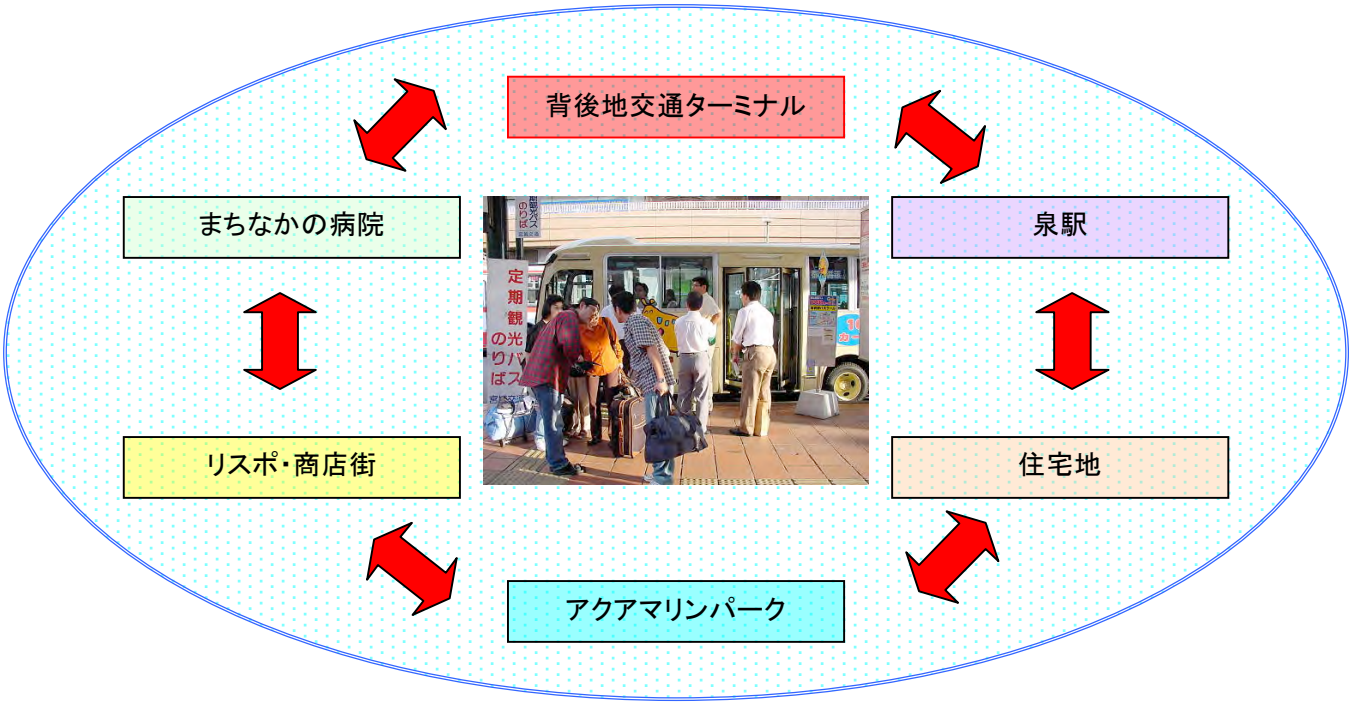
ゾーン	考えられる具体的機能	実現へ向けた課題
小名浜支所	・まちに必要な機能を集約し港湾背後地へ移転	・背後地再開発デベロッパー募集時の対応
本町通り商店街、周辺商業	・漁業のまちとして観光商業にも対応	・地域をあげて名物づくり
	・空き店舗、空き地の一括マネジメント	・地権者の理解と協力、権利関係の一括集約
	・安心安全な歩行空間整備	・本町通りの整備
リスポ周辺	・最寄商業を集約	・地域をあげてまちなか回帰を実施
	・高齢者向け住宅の建設	・市所有地などの有効活用
コミュニティバス運行	・港～まちなか～周辺住宅を結ぶ乗り合いミニバス	・民間で運営し続けられる仕組づくり
駐車場整備	・港湾背後地を利用したネットワーク化	・背後地の交通拠点整備促進
まちの財産、歴史の活用	・古湊地区、市街地の歴史、魚の文化などを活用	・マップづくり、〇〇の碑史跡紹介など

【具体的提案－1】

■まちなか周遊バス

コンパクトシティを進める重要な要素として、高齢者向けの交通手段の確保が重要な要素である。
そこで、まちなかの商店街、周辺の住宅地、病院、観光地などを周遊するバス網を整備。その運営については、補助金行政を頼らず、地域循環型の仕組みを作り出すことで持続可能なものにして行く必要がある。

【周遊・循環のイメージ】



【運営体制の研究例】

一例として、立ち寄り施設、企業等から賦課金を徴収しバスを定期運行させる手法をシュミレーション。

（単位：円）

（収入）			（支出）		
・立ち寄り施設課金	1,500,000	@50,000 円×30 社	・バス借上げ料	1,500,000	一式
・乗車賃	300,000	@100 円×100 人×30 日	・運転手	300,000	延べ 1 名×30 日
・広告料	100,000	@10,000 円×10 社×1 月	・その他	100,000	
計 1,900,000 円/月			計 1,900,000 円/月		

【具体的提案－2】

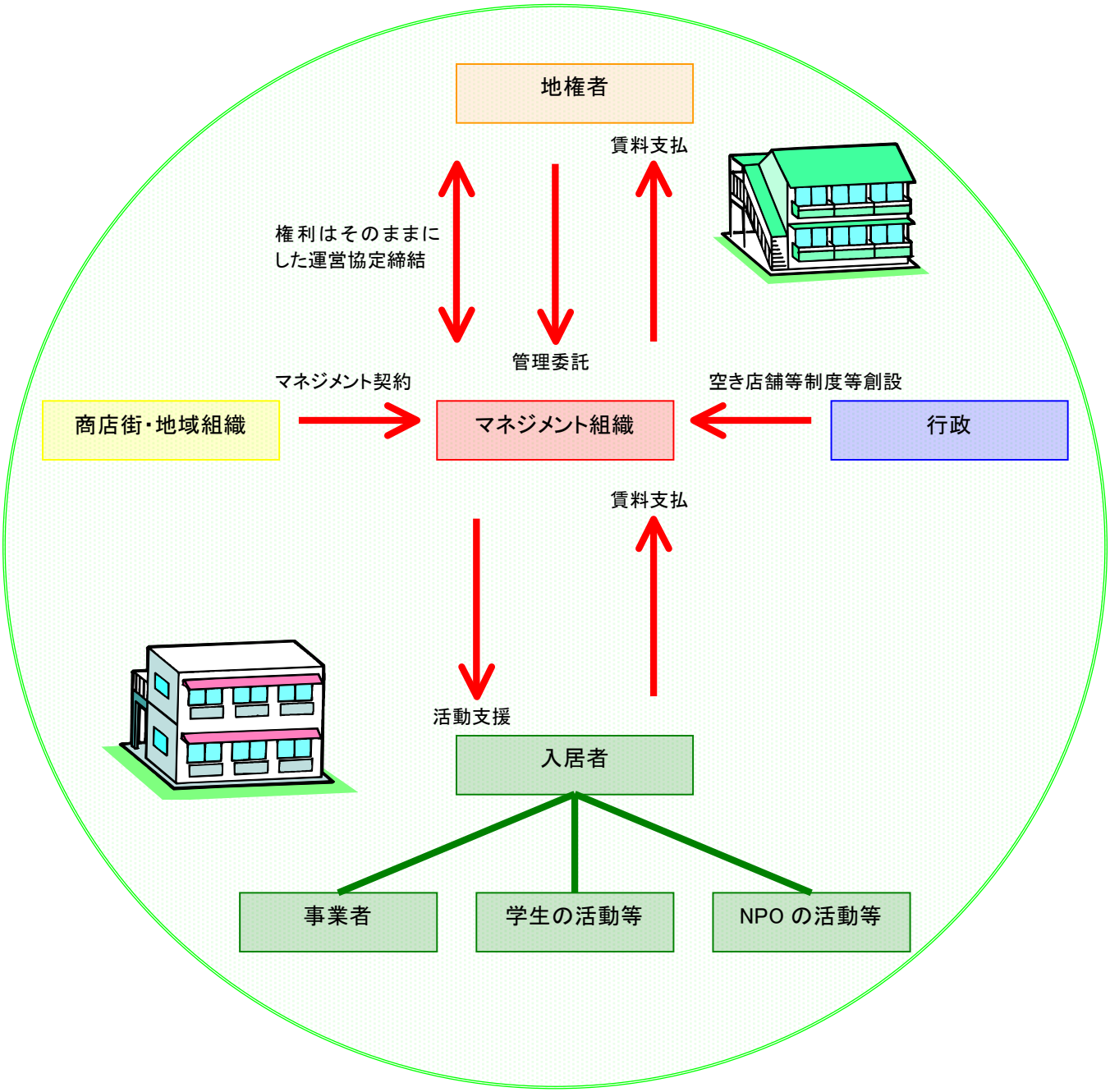
■まちなか不動産の一括マネジメント

商店街の開発が進まない要因として、商売は止めてもまだ住居として住んでいる。不動産関係の権利が複雑であるなどいくつかの要因が考えられる。

しかし、丸亀商店街のように抜本的な再開発事業は難しくハードルが高い。

そこで、まちぐるみで責任あるマネジメントを担当する組織をつくり、その組織が一括で空き店舗や空き地などを借り上げ、一括してマネジメントすることで、お店の集約が可能となるのではないだろうか。

【マネジメントのイメージ】

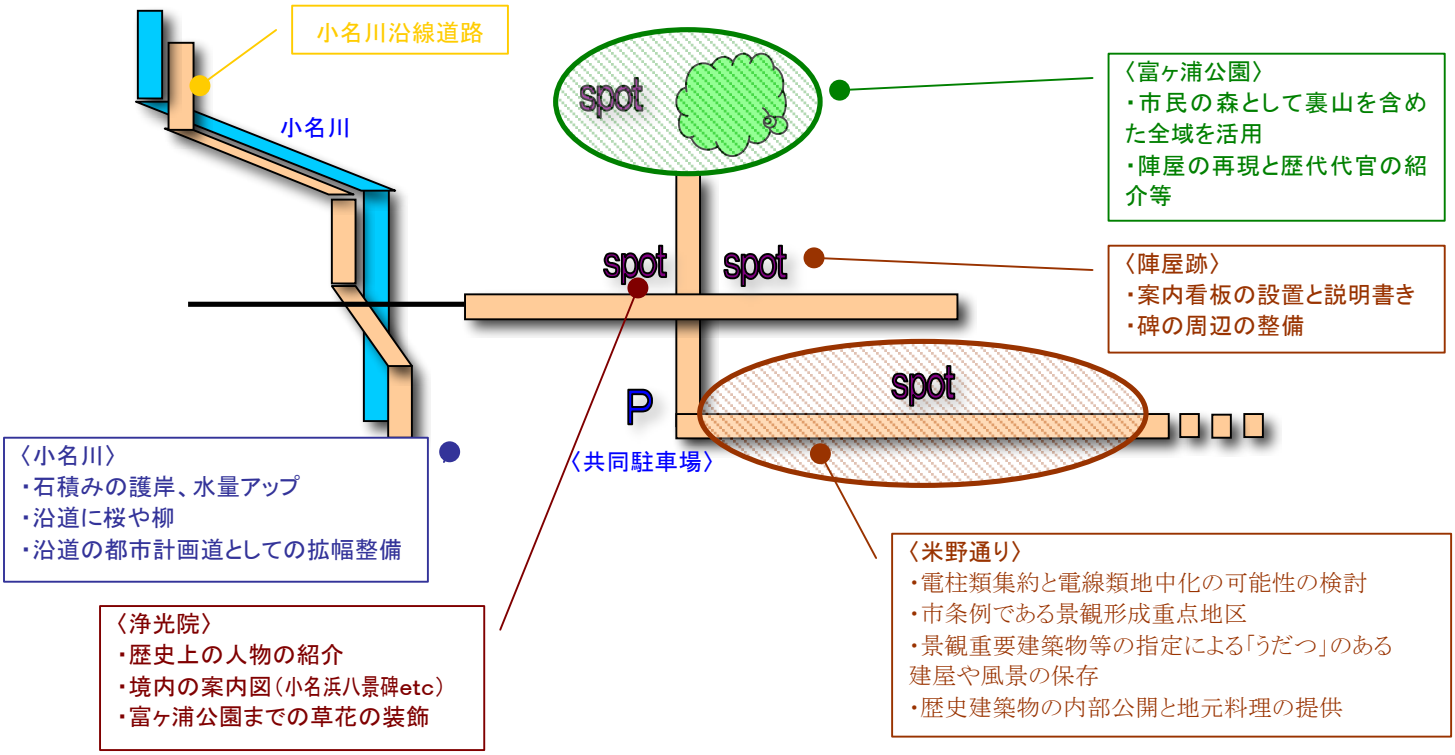


【実現へ向けたアクション】

整備内容	役割り分担			目標年次		
	民間	共同	行政	短期（現在～5年）	中期（5年～10年）	長期（10年以降）
コンパクトシティ推進のための具体的計画策定		◎				
・地区町計画に基づく個別具体計画		◎		→		
・官民のアクションプログラム		◎		→		
支所機能移転						
・港湾背後地への盛り込み	○		◎	→		
・交通ターミナル整備		◎			→	→
・駐車場整備			◎		→	→
循環バス運行						
・仕組みづくりと運行	○			→		
高齢者対策						
・歩行空間整備	○		◎	→	→	
空き店舗マネジメント						
・仕組みの検討・整備		◎		→	→	
・事業実施		◎			→	→
まちの財産活用						
・事業の検討や名物つくり	○	◎		→	→	→
・魚のまちキャンペーン	◎			→	→	→
・まちの歴史活用	◎			→	→	→

6，歴史と文化のまちなみ小名川・古湊地区

（1）平成 15 年度アクションプログラム



市街地において唯一の水環境を提供する小名川は、この環境をまちづくりの資源として利用し、水と親しむ空間と道の形成を推進。また、古湊地区は、港まち小名浜の発祥の地として、歴史や文化を地域資源と捉えたまちづくりを進めて行くことを提案、推進してきた。

【グランドデザインで描いた機能像】

◆小名川・古湊地区の全体のイメージ

・「小名川―浄光院―陣屋跡―富ヶ浦公園―米野通り」を巡る散策路づくりと、それに合わせた整備とソフト展開

◆小名川親水空間整備

・都市計画道路として、歩行空間確保と水辺の空間として護岸整備

・沿道にも桜や柳などの植樹による都市景観整備

◆古湊地区

・米野通りの歴史建造物保存など大規模開発ではなく景観保存

・浄光院や陣屋跡などの歴史保存

・まちの緑の公園としての富ヶ浦公園の散策路、桜の植樹などの整備

（2）これまで活動と進捗状況

この地区のこれまでの活動としては、小名川沿いの道路整備について、都市計画道路として整備するため市・地域住民との協議を進めてきたが、地域から一部の反対意見があり現在は進められていない。

また、古湊地区については、富ヶ浦公園散策路整備、桜の植樹など維持活動を行っている。旧ひまわり信金を活用しての歴史資料館解説、古湊散策路マップ掲示などを展開、また古湊と漁港で撮影された映画「船方さん」なども上映し歴史と文化の伝承をする事業を行ってきた。

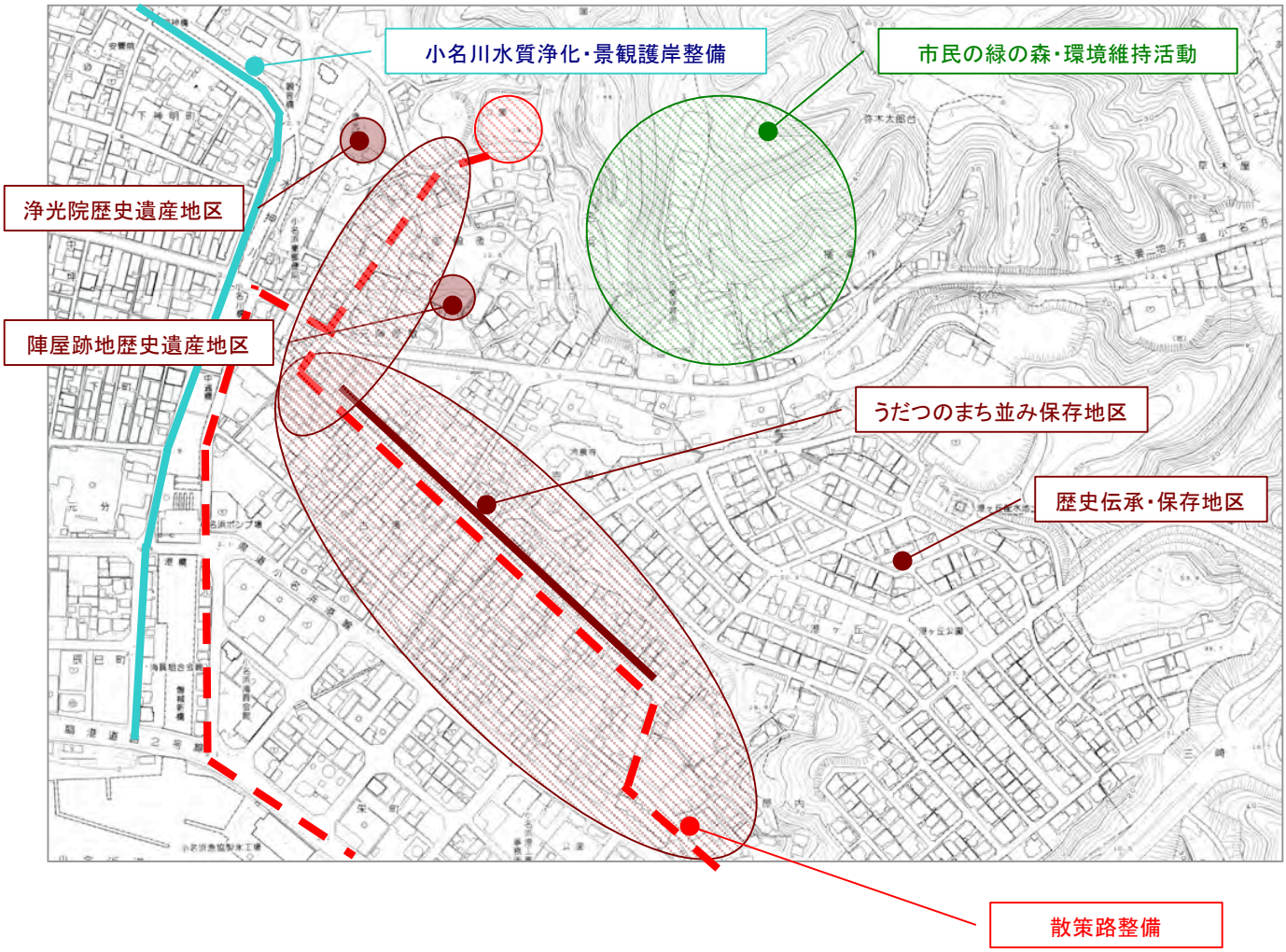
これら活動は、小名浜みなとまち大学での研究や、東部会の継続的活動などがこの地区のまちづくりを支えている。

案件等	アクション	その後
①富ヶ浦公園	・散策路整備 ・散策路と最上部などの立木の伐採などの維持活動 ・桜の植樹	・進行中
②代官所	・東部会にて模型製作	・まちステ展示中
③みなとまち資料館	・旧ひまわり信金にて実施 ・古湊マップを旧ひまわり信金外部に掲示	・現在候補地選定中
④船方さん上映会	・小名浜を舞台とした映画を上映	・H22 年上映
⑤まち歩き	・フラオンパクで開催	・継続

（3）今後 10 年へ向けて

古湊地区の今後へ向けては、小名浜発祥の地として、次世代の子供たちへの伝承することが重要であり、そのための景観形成、維持管理などに重点にまちづくりを進めていく。

また小名川沿道については、歩行空間の確保により安心安全な都市形成と合わせて、護岸の景観形成、水質の浄化などを地域市民が一体となって進めて行くことが必要である。



【総括的な機能導入イメージ】

提案	考えられる具体的機能	実現へ向けた課題
・小名川沿道の整備	・親水空間としての散策路 ・地元地権者への説明とコンセンサス形成 ・小名川の浄化に向けた活動	・行政と民間の協力体制構築と地区の合意形成 ・小名川の浄化や景観形成へ向けた市民運動組織づくり
・富ヶ浦公園	・市民の緑の森として環境維持活動 ・散策路の活用 ・桜の植樹、立ち木の伐採などの維持活動推進	・官民が一体となった維持活動
・古湊歴史散策路づくり ・古湊の歴史維持	・「小名川―浄光院―陣屋跡―富ヶ浦公園―米野通り」を巡る散策路づくり ・地域の子供たちの学習の場、研究の場などへ活用	・案内看板の活用、まち歩きマップ制作など ・歴史講話会などの開催 ・屋号の復活

【具体的提案－1】

■古湊歴史と文化の散策路

古湊地区の歴史や文化を地域で発掘、維持、保存することを重点に置き、歴史的名所を巡るコースを設定。地域の子供たちや市民の勉強の機会へも活用を図る。

【散策路のイメージ】

小名浜諏訪神社

浄光院

「古湊（通称）やり通り」
昔の船着場

小名浜築港の碑
（小名浜市長などの胸像）

富ヶ浦公園散策路
（公園～小名浜２中へ）

陣屋跡地石碑

富が浦公園散策路
（公園～小名浜２中へ）

「童心想園の碑」
水産高校の跡地の記念碑

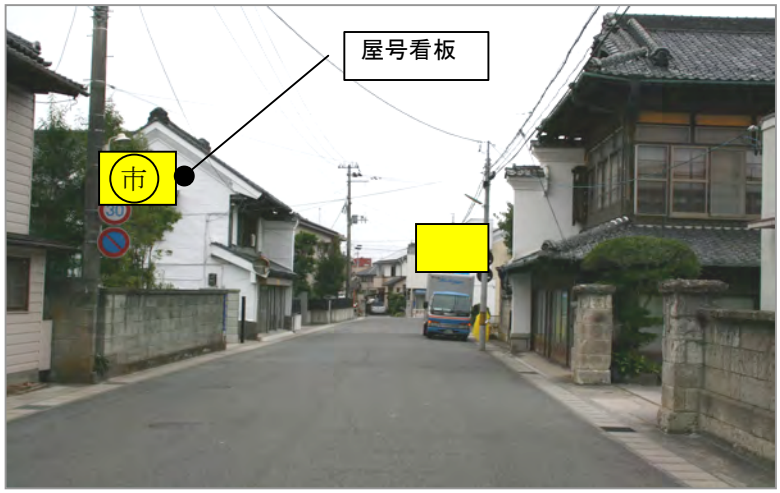
ちょっと一息
（魚市場・うおのぞき・磐城七浜絵巻）

【具体的提案－2】

■屋号の復活と歴史建築の保存

古湊地区の歴史を地域住民や子供たちに伝承することを目的に、屋号を復活させ、町並みの形成に役立てる。

【屋号看板の掲示】



【歴史建築の再生、保存】

歴史建築物を行政で指定する制度や、地域として指定する制度を創設し、云われなどを表示し、伝承や紹介をしていく。

新潟県村上市では、町家の見学、町家の再生、旧縁日の復活、などのプロジェクトを進めており、歴史地区の保存に努めている。その再生の手法としては、全国から基金を募集しファンドにするなどの仕組みを創設している。

【実現へ向けたアクション】

整備内容		役割り分担			目標年次		
		民間	共同	行政	短　期 （現在～5 年）	中　期 （5 年～10 年）	長　期 （10 年以降）
小名川沿道の整備							
	・親水空間としての散策路	○	◎	◎	→	→	
	・地元地権者への説明とコンセンサス形成	○	◎	○	→		
	・小名川の浄化に向けた活動	○	◎	○	→		
富ヶ浦公園の整備							
	・市民の緑の森として環境維持、活用	◎			→	→	→
	・散策路の活用	◎			→	→	→
	・桜の植樹、立ち木の伐採などの維持活動推進	◎			→	→	→
古湊の歴史、景観維持							
	・「小名川―浄光院―陣屋跡―富ヶ浦公園―米野通り」を巡る散策路づくり	◎			→	→	→
	・地域の子供たちの学習の場、研究の場などへ活用	◎			→	→	→

1，小名浜のシンボル大通り（都）平磐城線（通称：鹿島街道）

【実現へ向けたアクション】

整備内容	役割り分担			目標年次		
	民間	共同	行政	短期（現在～5年）	中期（5年～10年）	長期（10年以降）
シンボル大通りの早期整備促進						
・官民が一体となった運動と継続協議	○	◎	○	→		
沿道の景観形成と維持管理						
・沿線協議会設立	◎			→		
・街路灯整備手法の検討、設置	○	◎	○	→		
・景観形成重点地区に沿った開発	◎	◎	◎	→	→	→
・街路灯、美化活動等自主管理の実施	◎			→	→	→
域内幹線のネットワーク化						
・小名川沿い市道整備促進	○	◎	○	→		
・本町通り歩道整備	○	◎	○	→	→	
・駐車場等整備、ネットワーク	○			→	→	
・路線の案内充実	○	◎	○	→	→	→

2，海・まち・人の交流と情報の発信拠点となる「港湾背後地」

【実現へ向けたアクション】

整備内容	役割り分担			目標年次		
	民間	共同	行政	短期（現在～5年）	中期（5年～10年）	長期（10年以降）
定西未解決地の対策						
・解決へ向けた地権者との協議継続	○	◎	○	→		
ゾーニングと配置する機能構築						
・地域、行政による定期的な進捗打合せ	○	◎	○	→	→	→
・開発可能な事業体、施設の研究	○	◎	○	→		
・連絡調整会議の定期的開催			◎	→	→	→
デベロッパーの誘致						
・開発業種に合わせたデベロッパーリーシング	○	◎	○	→		
・開発スタート	◎				→	→
・完成	☺	☺	☺			→

3，賑わい交流空間と新たな港の産業「アクアマリンパーク」

【実現へ向けたアクション】

整備内容	役割り分担			目標年次		
	民間	共同	行政	短期（現在～5年）	中期（5年～10年）	長期（10年以降）
3･4号倉庫の整備						
・県での整備へ向けた機能の調整			◎	→		
・運営組織の明確化	○	○	◎	→		
・さら地による新たな理活用法の検討		◎		→	→	→
パーク内のライトアップ						
・北側駐車場を中心とした照明、照度アップ			◎	→		
・3 施設が連携し色などを統一した海側のライトアップ	○	◎	○	→		
駐車場整備						
・3号埠頭港湾用地の駐車場としての整備			◎	→		
アミューズメント施設誘致						
・広く意見を集め誘致運動	○			→		
・整備手法の検討、調整			◎	→		
東港地区						
3号埠頭東側、東港			◎	→		
臨港道路橋梁			◎	→		
小名浜港の景観形成	○	◎	○	→		
アクアマリンパークのプロデュース						
・ネットワーク強化、情報交換	◎	◎		→	→	→
・産業観光など新たな視点の促進	◎			→	→	→

4，漁業の再生と魚市場の今後「漁港区」

【実現へ向けたアクション】

整備内容	役割り分担			目標年次		
	民間	共同	行政	短期（現在～5年）	中期（5年～10年）	長期（10年以降）
水産業の活性化						
・第6次産業の推進	◎	◎	◎	→	→	
・組織のあり方、再編の検討	◎	◎	◎	→		
小名浜魚市場の整備						
・魚市場検討会議の協議	○	◎	○	→		
・小名浜魚市場の整備	○	○	◎	→		

・新しい魚市場機能の活用	○	◎	○	→		
市場周辺の整備						
・築地場外のような賑わいづくり	◎	◎	○	→	→	→

5，小名浜庶民のまちなかの再生

【実現へ向けたアクション】

整備内容	役割り分担			目標年次		
	民間	共同	行政	短期（現在～5年）	中期（5年～10年）	長期（10年以降）
コンパクトシティ推進のための具体的計画策定		◎				
・地区町計画に基づく個別具体計画		◎		→		
・官民のアクションプログラム		◎		→		
支所機能移転						
・港湾背後地への盛り込み	○		◎	→		
・交通ターミナル整備		◎			→	→
・駐車場整備			◎		→	→
循環バス周航						
・仕組みづくりと運行	○			→		
高齢者対策						
・歩行空間整備	○		◎	→	→	
空き店舗マネジメント						
・仕組みの検討・整備		◎		→	→	
・事業実施		◎			→	→
まちの財産活用						
・事業の検討や名物作り	○	◎		→	→	→
・魚のまちキャンペーン	◎			→	→	→
・まちの歴史活用	◎			→	→	→

6，歴史と文化のまちなみ小名川・古湊地区

【実現へ向けたアクション】

整備内容	役割り分担			目標年次		
	民間	共同	行政	短期（現在～5年）	中期（5年～10年）	長期（10年以降）
小名川沿道の整備						
・親水空間としての散策路	○	◎	◎	→	→	
・地元地権者への説明とコンセンサス形成	○	◎	○	→		

	・小名川の浄化に向けた活動	○	◎	○	→		
富が浦公園の整備							
	・市民の緑の森として環境維持、活用	◎			→	→	→
	・散策路の活用	◎			→	→	→
	・桜の植樹、立ち木の伐採などの維持活動推進	◎			→	→	→
古湊の歴史、景観維持							
	・「小名川―浄光院―陣屋跡―富ヶ浦公園―米野通り」を巡る散策路づくり	◎			→	→	→
	・地域の子供たちの学習の場、研究の場などへ活用	◎			→	→	→

Ⅵ. これからのまちづくりへ向けて

小名浜まちづくり市民会議は、設立 10 周年を迎え、これまで港まち小名浜のグランドデザインの作成をすることにより考え出されたビジョンに対して、実現へ向けた様々なまちづくりを行ってきました。その完成・見直しなどの検証と、今後 10 年のビジョンのとりまとめを行ってきました。

特に、これから 10 年後のまちづくりについては、10 年前とは大きく時代が変革し、政治・経済が混沌とした中、中央と地方の格差も一向に埋まらず、行政の財政も厳しく、民間投資も絞られることが想定されるなど、地方の歩むべき道の選択も難しくなってくるに違いないと考えられます。

グランドデザインのコンセプトにも示したように、まちの主役は私たち小名浜人であり、私たちが住み続ける小名浜がどのように変わって行き、反面変わらずに残せることができるか。我々の行動一つ一つがグランドデザインの具現化へ向けたアクションとなるであろうと考えます。

一度描いたビジョンであっても、決して固定化したものではありません。時代にあった、持続可能な姿を模索しながら、柔軟な発想と迅速な対応で事を進めることこそが、まちづくりが永続的な取り組みとして続いていくことだと思います。

これからの小名浜のまちづくりは、一つに小名浜を支えてきた漁業の新しい在り方、経済・雇用を支える臨海工業、県内最大の観光交流スポットとなった観光産業の今後をどのように捉えていくのかといった港と産業の側面。二つとして、日常生活と非日常をどのように捉え、機能的選択を図り港湾背後地の開発を進めるか。三つには、持続可能なまちでの生活をどのように支えるべきか。この 3 点が重要な要素となってくると思います。

人口の重心は中心市街地から移行し、都市間競争の激しさも増しています。右肩上がりの社会ではなくなった現在、開発偏重型の社会から持続可能な地域社会をどのように創り上げるのか。その中では、今後の人口の社会増は果たして可能なのかなど、これからの小名浜の課題は山積みです。

小名浜まちづくり市民会議は、これからも行政と市民がパートナーシップによるまちづくりを進め、活力ある持続可能な港まちづくりを進めるため、一人でも多くの方にまちづくりの参加を呼びかけていきます。

10 年後、夢に描いた小名浜があり続けるように…。

「港まち　小名浜のグランドデザイン」

これまでの 10 年とこれからの 10 年…

Ⅶ. 検討の経過

1. 検討の経過

年	月	内容	会議等
2010 年	4 月	○グランドデザイン検証の主旨とスケジュールの確認	・全体会議
	5 月	○緑の大通り ・従来検証と具体的ビジョン立案 ・ワークショップ	 ・ヘッドクォーター会議 ・全体会議
	6 月	○港湾背後地 ・従来検証と具体的ビジョン立案 ・ワークショップ	 ・ヘッドクォーター会議 ・全体会議
	7 月	○アクアマリンパーク ・従来検証と具体的ビジョン立案 ・ワークショップ	 ・ヘッドクォーター会議 ・全体会議
	8 月	○漁港区 ・従来検証と具体的ビジョン立案 ・漁業関係者との意見交換 ・ワークショップ	 ・ヘッドクォーター会議 ・ヘッドクォーター会議 ・全体会議
	9 月	○中心市街地 ・従来検証と具体的ビジョン立案 ・ワークショップ	 ・ヘッドクォーター会議 ・全体会議
	10 月	○小名川・古湊 ・従来検証と具体的ビジョン立案 ・ワークショップ	 ・ヘッドクォーター会議 ・全体会議
	11 月	○全体を通してのまとめ-1	・ヘッドクォーター会議 ・全体会議
	12 月	○全体を通してのまとめ-2 ○外部講師コメント ・アルファ社会科学　関沢　氏 ・東日本国際大　福迫　氏	・ヘッドクォーター会議 ・全体会議
2011 年	1 月	○全体を通してのまとめ-3	・ヘッドクォーター会議 ・全体会議
	2 月	○最終まとめ、印刷製本	
	3 月	○とりまとめ発表会	

「港まち小名浜のグランドデザイン」
これまでの10年とこれからの10年…

平成 23 年 3 月発行
製作・発行
小名浜まちづくり市民会議
〒971-8101　いわき市小名浜字本町 11-1